1　診　療　部

循環器センター

循環器内科

1　担当スタッフ

主任部長　千葉　義郎

最高技術顧問　青沼　和隆

部長　山田　典弘　　部長　石橋　真由　　部長　長谷川　智明　　部長　樋口　基明

部長　川原　有貴　　医員　藤沼　俊介

令和３年度の人事は長年にわたって主任部長を務めていた大平医師が開業されたことに伴い、令和４年２月から千葉医師が主任部長に就任した。また筑波大学から出張できていた篠田医師が非常勤となったものの、前年度同様に長谷川医師とともに不整脈治療に大いに貢献してくれた。

2　診療の状況

前年度と同様にコロナの影響が続いたものの、当初にみられた医療材料不足はほぼ解消され、待機的治療は徐々にコロナ前の水準に戻る傾向にあった。またコロナ病棟での ECMO 装着や管理を救急科と協力しながら行った。

＜カテーテル治療＞

虚血性心疾患に関するカテーテル治療の件数は前年度よりわずかに増加がみられた。緊急症例も例年と同様の件数であった。待機症例においては透析患者に対するカテーテル治療の割合が高いこともあり、従来のロータブレータに加えて前年度からエキシマレーザー冠動脈形成術（ELCA）やダイアモンドバックといった治療を取り入れ、経験症例を積み重ねている。

また令和元年から当院で導入された大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療（TAVR）も順調に経験症例数を重ねることができた。これに伴い山田医師が TAVR 指導医、川原医師が TAVR 実施医資格を取得したため、専門施設認定に向けて体制作りを進めていくことが今後の課題と考えている。また僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療（MitraClip）も新たに導入した。まだまだ経験症例は少ないものの、治療効果には大きな手ごたえを実感しており、地域で完結できる循環器診療を掲げる当院として、今後も取り組む意義は大きいと考えている。

不整脈治療に関するカテーテル治療は青沼医師の御指導の元、前年度よりさらに症例数が増加した。またこの領域においても治療の進歩は目覚ましく、当院でもレーザーバルーンの導入など、新しいデバイスの導入に積極的に取り組んでいる。

＜デバイス治療＞

徐脈性不整脈に対する恒久ペースメーカーや致死性不整脈に対する植込み型除細動器（ICD）、心不全

に対する非薬物治療としての心臓再同期療法（CRT）の症例数は大きな増減もなく安定した症例数を保っている。新たに皮下植え込み型除細動器（S-ICD）も導入され、より選択の幅が広がっている。

心房細動の塞栓予防は抗凝固療法が基本だが、この抗凝固療法によって重篤な出血性合併症を来す症例がある。このような出血リスクが高い患者に対して塞栓源である左心耳をカテーテルで閉鎖するデバイス（Watchman）を当院でも施行している。著しい増加はないものの、患者さんの高齢化に伴い今後も徐々に増加傾向になってくると予想している。

＜リハビリテーション＞

急性期治療においては救命が優先事項ではあるが、病状がある程度落ち着いた後は、いかに症状を取り除き、自信を持って社会復帰できるようにすることが重要となる。そのため当科では心臓リハビリテーションにも力を入れている。前年度同様にリハビリスタッフの尽力により症例数も増加している。今後は再入院の低下つながることを示していきたい。

3　今後の展望

今年度は依然としてコロナの影響が大きかったが、当初の医療資材不足はかなり解消され、いわゆるウィズコロナ時代の医療体制を探る時期であった。実際のところ病棟の入院患者やスタッフに感染者がでたものの、幸い診療体制への影響は最小限であった。今後も安定した医療を提供できるように試行錯誤を繰り返しながら体制作りを進めていく必要があると考えている。

また「地域で完結できる循環器診療」をキーワードに、長年にわたって県央で最も幅広い循環器診療を行ってきたが、今後も新しい治療の導入を継続していく努力は惜しまない。同時に2024年度から求められている医師の働き方改革にも十分に対応することも不可欠で、今まで以上にスタッフの確保が大きな課題になると考えている。

■臨床指標・統計

【疾患別入院患者数】

症　　例	患者数	症　　例	患者数
虚血性心臓病	288	たこつぼ型心筋症	5
急性心筋梗塞症	82	先天性心疾患	2
陳旧性心筋梗塞症	27	心外膜疾患	7
狭心症（不安定、疑い例も含む）	163	大動脈疾患、末梢動脈疾患	117
不整脈	455	静脈疾患	3
心不全	190	肺塞栓症	5
弁膜症	94	炎症性心疾患	4
心筋症	6	その他の疾患（肺炎など）	100
		総計	1274

【カテーテル治療実績】

治療法	待機的	緊　急	計
冠動脈	209	91	300
Stent 植込み術	178	71	249
POBA	6	4	10
Rotablator（再掲）	9	0	9
ELCA（再掲）	16	16	32
不整脈	322	-	322
ablation	314	-	314
WATCHMAN	8	-	8
弁膜症	49	1	50
TAVR	44	-	44
PTAV	3	1	4
MitraClip	2	-	2
末梢動脈	122	-	122
EVT	122	-	122

【デバイス治療実績】

種　類	新　規	交　換	総　数
ICD	9	9	18
S-ICD	2	-	2
CRT-P	2	-	2
CRT-D	3	1	4
PM	57	34	91

■業　績

【学会・研究会発表】

1. 樋口基明 , 千葉義郎 : 上間膜動脈閉塞症に対する当院での IVR 治療手法や転帰に関して検討 . 第 50 回日本 IVR 学会総会（大阪府）,2021 年 5 月 21 日
2. 樋口基明:重症慢性心不全の患者に対してImpellaとIvbradineによるHeart rest therapyが有効であった一例 . 第 69 回日本心臓病学会学術集会（鳥取県）,2021 年 9 月 17 日
3. 樋口基明 : バルーンサポート下による Impella 抜去の有効性について . 第 69 回日本心臓病学会学術集会（鳥取県）,2021 年 9 月 19 日
4. 樋口基明 : 当院における R2P システムによる血管内治療の使用経験から適応症例の検討 , 第 62 回日本脈管学会総会（北海道）,2021 年 10 月 15 日

5. 藤沼俊介, 千葉義郎, 川原有貴, 樋口基明, 長谷川智明, 石橋真由, 山田典弘, 大平晃司, 村田実, 青沼和隆: 当院におけるステントグラフト閉塞の報告. 第58回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会（東京都）,2021年10月16日
6. 川原有貴, 山田典弘, 石橋真由, 千葉義郎, 椎名映里, 郡司真誠, 荷見祥子, 黒澤洋, 佐藤ちひろ, 海老原至, 大平晃司: 胸痛トロポニン高値で発症し急性冠症候群が疑われた心アミロイドーシスの例. 第58回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会（東京都）,2021年10月16日
7. Motoaki Higuchi,Kisato Mitomi,Yoshiro Chiba:A case of severe traumatic cardiac injury due to a leadless pacemaker that required surgical repair,Oxford Medical Case Reports,2022 Jan,2022 (1):omab146
8. 樋口基明, 長谷川智明, 山田典弘, 千葉義郎, 村田実, 青沼和隆: 心臓植込みデバイスの左植込み時に従来とは逆向きに患者を寝かせることによる器械操作の向上とそれによる手技時間短縮の検討. 第14回植込みデバイス関連冬季大会（京都府）,2022年2月11日
9. 樋口基明, 長谷川智明, 山田典弘, 千葉義郎, 村田実, 青沼和隆: 透視下での鎖骨下静脈穿刺の際におけるメルクマールの検討. 第14回植込みデバイス関連冬季大会（京都府）,2022年2月11日
10. 樋口基明, 長谷川智明, 山田典弘, 千葉義郎, 村田実, 青沼和隆: 植込み時インピーダンスを考慮したMicra-TPS植込みの有効性についての検討. 第14回植込みデバイス関連冬季大会（京都府）,2022年2月11日
11. 樋口基明, 藤沼俊介, 千葉義郎, 永田雄大, 遠藤浩志, 村岡麻樹:Impellaによる Heart rest therapy により広範囲の心筋壊死を回避できた左冠動脈と主幹部急性心筋梗塞の2症例. 第49回日本集中治療医学会学術集会（WEB開催）,2022年3月19日
12. 樋口基明, 千葉義郎, 井上政則, 土田博光: 下肢静脈瘤を伴う骨盤内うっ血症候群に対して、先行して骨盤静脈塞栓術を行った1例. 第5回関東甲信越 Venous Forum（茨城県）,2022年3月27日

呼吸器・心臓血管外科

1　担当スタッフ

副院長　倉岡　節夫

主任部長　篠永　真弓　　部長　倉持　雅己　　部長　上西　祐一朗　　部長　梅澤　麻以子

2　診療の概況

令和3年度の手術症例数は224例、全身麻酔手術184例/82.1%、緊急手術は39例/17.4%、70歳以上は115例/51.3%でした。内訳は心臓・胸部大動脈外科65例（開心術52例）、呼吸器外科45例、血管外科113例、その他1例です。

全手術中80歳以上は42例/18.8%、心臓・胸部大動脈手術では10例/15.4%、腹部大動脈瘤手術では12例/24.0%でした。また手術症例には含めていない、大動脈弁狭窄症（AS）に対する経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）44例では35例/79.5%と、高齢であっても積極的な治療対象となる症例は増加しています。手術症例の高齢化は今後も続くものと考えられ、合併症を起こさず術後のADLを下げないように治療を行うことが課題です。

胸部・腹部大動脈瘤に対しては、開心術・開腹術に加えてステントグラフト内挿術（TEVAR、EVAR）も行っています。TEVAR10例中、瘤破裂1例/10.0%に緊急手術を行い、AAA破裂に対する緊急手術8例中6例/75.0%はEVARを施行しています。TEVAR、EVARは低侵襲ではありますが、術後エンドリークによる瘤拡大のため、追加のカテーテル治療を何度も施行した症例や、開心術・開腹術を行った症例が複数みられようになり、適応症例の選択が一層重要となっています。弁膜症については、TAVIが普及してもTAVI適応外のAS症例や連合弁膜症も多く、弁置換・弁形成症例は減少せず、不整脈手術（心房細動に対するMAZE手術）併置例も増加しています。

閉塞性動脈硬化症の手術は7例で、減少傾向が続いています。小口径のステントグラフトや新世代のステントによるカテーテル治療が増加し、手術はより重症な虚血肢が対象となり、非解剖学的バイパス術、内膜摘除、足底動脈へのバイパス術を行っています。下肢静脈瘤に対しては、前年度まではラジオ波治療が主流でしたが、現在はグルー（Venaseal）を血管内に注入する静脈塞栓術が18例（20肢）と全症例の95.0%を占めています。塞栓術非適応例に対してラジオ波や静脈抜去術を行っています。

呼吸器外科では高度な癒着や拡大手術が必要ない限り胸腔鏡下手術（VATS）を行い、良性疾患である気胸は全てVATS、縦隔腫瘍に対してもVATSを行い、原発性肺癌15例中13例で完全VATSを施行しました。術前診断に必要な気管支鏡下での生検、術後や再発時、また手術不能例に対する化学療法や放射線治療も積極的に行っています。

入院期間は年々短縮傾向にあり、心臓・大血管手術10～14日、ステントグラフト内挿術3-5日、呼吸器外科手術4～7日、末梢血管手術5～10日、下肢静脈瘤は、塞栓術は外来手術、その他の手術では3日で、クリティカルパスに従った入院治療を行います。バスキュラーアクセス形成は外来手術、再手術症例で全身麻酔が必要な時は、7-10日間の入院治療を要します。

■臨床指標・統計

【入院患者数症例数】

症　　例	患者数	症　　例	患者数
心臓疾患	39	血管疾患	132
虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）	10	胸部大動脈瘤、解離性大動脈瘤	50
弁膜疾患	18	腹部大動脈瘤、腸骨動脈瘤	55
その他の心疾患	2	末梢動脈瘤	2
ペースメーカー交換、検査	0	閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞症	15
心不全	8	内シャントトラブル	3
その他	1	静脈疾患	1
呼吸器疾患	95	エンドリーク（EVAR・TEVAR 後）	2
気胸、血胸、肺気腫	21	その他（外傷など）	4
肺腫瘍	51	その他	15
縦隔腫瘍、胸壁腫瘍	5		
肺炎、膿胸	9		
その他（外傷）	9		
		総計	281

【手術症例数】

症　　例	件　数	症　　例	件　数
心臓大血管手術	65	血管外科手術	113
非人工心肺下手術 （内　胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術）	13 (10)	腹部大動脈瘤 （内　腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術）	50 (39)
人工心肺下手術 （内　胸部大動脈瘤手術）	52 (26)	閉塞性動脈硬化症 （内　心臓大血管手術との重複）	7 (0)
ペースメーカー手術	0	内シャント	7
その他（ドレナージなど）	0	急性動脈閉塞	7
呼吸器外科手術	45	Varix	18(21肢)
開胸手術	5	末梢動脈瘤など	9
胸腔鏡下手術（VATS）	32	カテーテル治療	2
気管切開	5	その他（PCPS 抜去など）	13
その他（リンパ節生検など）	3	その他	1
※原発性肺癌手術 （内　VATS）	15 (13)		
		総計	224

全身麻酔（184）　腰椎・局所麻酔（40）

【検査症例数】

症　　例	患者数
気管支鏡検査	26

R3 年 4 月 1 日～ R4 年 3 月 31 日の 1 年間　心臓大血管手術

1．弁膜症

<table>
<tr><th rowspan="2">区　　分</th><th rowspan="2">弁位</th><th colspan="5">手　　術</th></tr>
<tr><th>症例数</th><th>弁置換</th><th>弁形成</th><th>CABG
併施数</th><th>PVI
併施数</th></tr>
<tr><td rowspan="4">単弁手術</td><td>A</td><td>13</td><td>13</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td>M</td><td>4</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td></tr>
<tr><td>T</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td>P</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td rowspan="2">A　＋　M</td><td>A</td><td rowspan="2">1</td><td>1</td><td>0</td><td rowspan="2">0</td><td rowspan="2">0</td></tr>
<tr><td>M</td><td>1</td><td>0</td></tr>
<tr><td rowspan="2">A　＋　T</td><td>A</td><td rowspan="2">0</td><td>0</td><td>0</td><td rowspan="2">0</td><td rowspan="2">0</td></tr>
<tr><td>T</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td rowspan="2">M　＋　T</td><td>M</td><td rowspan="2">1</td><td>0</td><td>1</td><td rowspan="2">0</td><td rowspan="2">1</td></tr>
<tr><td>T</td><td>0</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="3">A＋M＋T</td><td>A</td><td rowspan="3">0</td><td>0</td><td>0</td><td rowspan="3">0</td><td rowspan="3">0</td></tr>
<tr><td>M</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td>T</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td>総　　数</td><td></td><td>20</td><td>17</td><td>5</td><td>1</td><td>3</td></tr>
</table>

2．血性心疾患

手　　術	症例数
冠状動脈バイパス手術（CABG）	9（単独）

3．胸部大動脈瘤

Stanford 分類	急性解離		慢性解離		胸部大動脈瘤		計
	A	B	A	B	破裂	非破裂	
上行置換	0	0	1	0	0	2	3
基部置換	1	0	0	0	0	1	2
上行弓部置換	12	0	2	1	0	6	21
下行置換	0	0	0	0	0	0	0
TEVAR	0	1	0	4	1	2	8
総　数	13	1	3	5	1	11	34

R3 年 4 月 1 日～ R4 年 3 月 31 日の 1 年間　肺・縦隔手術

1．肺癌

組織型分類	例　数	30 日死亡		在院死亡数
		院　内	院　外	
腺　　　　　　癌	13	0	0	0
扁　平　上　皮　癌	2	0	0	0
大　細　胞　癌	0	0	0	0
小　細　胞　癌	0	0	0	0
そ　　の　　他	0	0	0	0
合　　計	15	0	0	0

2．転移性肺腫瘍　例数 5（大腸 4、甲状腺 1）（胸腔鏡下 5）
3．良性腫瘍　　　例数 1
4．胸膜腫瘍　　　例数 0
5．縦隔腫瘍　　　例数 3 （胸腔鏡下 1）
6．炎症性肺疾患　例数 2 （胸腔鏡下 0）
7．気胸　　　　　例数 10（胸腔鏡下 10）

※ 1～7：死亡例数 0

■業　績

【学会・研究会発表】

1．篠永　真弓，梅澤　麻以子，三富　樹郷，倉持　雅己，倉岡　節夫：人工心肺離脱困難時、Impella 挿入の有用性．第 27 回新潟心臓血管肺手術手技研究会（新潟），2021 年 4 月 24 日
2．倉岡　節夫，篠永　真弓，三富　樹郷，梅澤　麻以子：急性 A 型解離緊急手術後、自宅退院できない理由．第 49 回日本血管外科学会（名古屋），2021 年 5 月 19 日～ 21 日
3．梅澤　麻以子，三富　樹郷，篠永　真弓，倉岡　節夫：腹部ステントグラフト内挿術後 Type Ⅰ b エンドリークの原因と治療法について．第 49 回日本血管外科学会（名古屋），2021 年 5 月 19 日～ 21 日
4．梅澤　麻以子，三富　樹郷，篠永　真弓，倉岡　節夫：左鎖骨下動脈瘤破裂に対する治療戦略．第 49 回日本血管外科学会（名古屋），2021 年 5 月 19 日～ 21 日
5．三富　樹郷，梅澤　麻以子，篠永　真弓，倉岡　節夫：PAD に対する遺伝子治療－ベペルミノゲンペルプラスミドの臨床使用経験－．第 49 回日本血管外科学会（名古屋），2021 年 5 月 19 日～ 21 日
6．倉持　雅己，篠永　真弓，倉岡　節夫：骨膜外 air plombage 法を応用した慢性有瘻性 MRSA 膿胸の治療経験．第 38 回日本呼吸器外科学会（長崎），2021 年 5 月 20 日
7．梅澤　麻以子，三富　樹郷，倉持　雅己，篠永　真弓，倉岡　節夫：全弓部置換術後の椎骨動脈領域虚血に対して左鎖骨下動脈への追加バイパス術が有効だった症例．第 186 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会（東京），2021 年 6 月 5 日

8．倉岡　節夫，梅澤　麻以子，倉持　雅己，上西　祐一朗，篠永　真弓：感染性胸部大動脈瘤で３回目の大動脈破裂で死亡した１例．第５回北関東ステントグラフトクラブ（Web），2021 年７月 22 日
9．梅澤　麻以子：左鎖骨下動脈瘤破裂に対する治療戦略．第 306 回水戸市医師会病棟・水戸済生会総合病院症例検討会（水戸），2021 年 10 月６日
10. 倉岡　節夫，篠永　真弓，上西　祐一朗，倉持　雅己，梅澤　麻以子：EVAR 後の neck 径の変化．第 27 回新潟血管外科研究会（新潟），2021 年 10 月 23 日
11. 倉岡　節夫，篠永　真弓，倉持　雅己，三富　樹郷，梅澤　麻以子：開心術後胸骨閉鎖３方法の比較－ 11 年間 722 例の検討－．第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会（東京），2021 年 10 月 31 日～ 11 月３日
12. 梅澤　麻以子，倉岡　節夫，篠永　真弓，倉持　雅己，三富　樹郷：断端形成しない FET 法．第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会（東京），2021 年 10 月 31 日～ 11 月３日
13. 三富　樹郷，梅澤　麻以子，倉持　雅己，篠永　真弓，倉岡　節夫：心臓手術周術期における Impella の有用性．第 74 回日本胸部外科学会定期学術集会（東京），2021 年 10 月 31 日～ 11 月３日
14. 倉岡　節夫，篠永　真弓，上西　祐一朗，倉持　雅己，梅澤　麻以子：オープンステントグラフトのサイズ選択と手術成績．第 59 回日本人工臓器学会大会（舞浜），2021 年 11 月 25 日～ 11 月 27 日
15. 篠永　真弓，梅澤　麻以子，倉持　雅己，上西　祐一朗，倉岡　節夫：人工心肺離脱困難時、Impella 挿入の有用性．第３回茨城 Impella 研究会（つくば），2022 年２月８日
16. 倉岡　節夫，篠永　真弓，上西　祐一朗，倉持　雅己，梅澤　麻以子：EVAR 後の Neck 径の変化．第 52 回日本心臓血管外科学会学術総会（横浜），2022 年３月３日
17. 武田　佳菜，梅澤　麻以子，上西　祐一朗，倉持　雅己，篠永　真弓，倉岡　節夫：右側大動脈弓、左鎖骨下動脈起始異常、Kommerell 憩室に対して全弓部置換 +OSG 挿入を行った１例．第 188 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会　研修医セッション（東京），2022 年３月 19 日
18. 倉岡　節夫，篠永　真弓，上西　祐一朗，倉持　雅己，梅澤　麻以子，宮田　忠明，佐藤　美恵子，小泉　幸恵，菊池　尚美，国井　紗土美：ベナシールの初期治療成績の検討．第５回関東甲信越 Venous Forum（つくば），2022 年３月 27 日

【論文・著書】

1．倉岡　節夫，篠永　真弓, 三富　樹郷, 鈴木　脩平：Elephant trunk 法と Frozen elephant trunk 法の比較・検討 .（胸部外科　74 巻５号：327 ～ 330），2021 年
2．倉岡　節夫，梅澤　麻以子，鈴木　脩平，三富　樹郷，倉持　雅己，篠永　真弓：感染性胸部大動脈瘤で２回の大動脈瘤破裂を来した１例 .（胸部外科　74 巻６号：461 ～ 464），2021 年
3．倉岡　節夫，篠永　真弓，上西　祐一朗，倉持　雅己，三富　樹郷，鈴木　脩平，梅澤　麻以子：開心術後胸骨閉鎖３方法の比較－ 11 年間 722 例の検討－ .（胸部外科　75 巻：323 ～ 327），2022 年
4．倉岡　節夫，篠永　真弓，上西　祐一朗，倉持　雅己，梅澤　麻以子：腹部大動脈ステントグラフト内挿術（EVAR）後のネック径と脚径の年次変化 .（日本血管外科学会雑誌 Vol.31：35 ～ 39），2022 年
5．竹蔵　竜治，三富　樹郷，唯根　弘，倉岡　節夫：重症下肢虚血患者における荷重時期の決定において足部病変を細分化することが有効であった１例 .（日本フットケア・足病医学会誌３（2）：76 ～ 81），2022 年

➤消化器センター

◆ 消化器内科

１　担当スタッフ

副院長　仁平　武

主任部長　柏村　浩

部長　青木　洋平　　部長　大川原　健　　部長　佐藤　義久　　部長　今井　雄史

部長　金野　直言　　部長　宗像　紅里　　医員　渡部　主樹　　医員　目時　佳恵

医員　根本　陽介

非常勤　打越　康郎　　非常勤　谷口　恭亮　　非常勤　渡辺　孝治　　非常勤　皆川　敏弘

非常勤　廣澤　拓也

２０２１年度は、千葉大学附属病院から今井部長と渡部医員の派遣を受けました。自治医科大学附属病院から来られた廣澤部長は非常勤となられましたが、卓越した手技（特にESD）をもってひき続き貢献いただいています。また、佐藤部長が加わり１１名体制となり、人員的には維持以上の体制を確保できました。本年度もコロナ禍が続いていますが、スタッフ一丸となり、ひき続きこの難局に対処していきます。また、５名の非常勤のベテラン医師が診療のみならず、若手医師・研修医の教育に貢献して下さり非常に感謝しております。今後もお力添えをいただきたく存じます。

２．診療の概況

肝臓領域は慢性肝炎・肝硬変・肝細胞癌が中心で、造影エコーを用いた肝細胞癌の診断・ラジオ波治療は仁平副院長が携わり、カテーテル治療は青木部長、金野部長を中心に行っています。胆膵疾患の内視鏡治療は青木部長、今井部長、金野部長、宗像部長が中心に行い、ERCP関連手技の件数は４３０件と増加傾向です。さらに超音波内視鏡関連手技も、EUS　１８６件、穿刺吸引法EUS-FNA　２４件と増加傾向で、積極的な診断を行っています。小腸内視鏡についても今井部長により導入されました。消化管の早期癌について、特に大腸ESDが廣澤先生のサポートをいただき、安定した手技として若手専門医に根付いています。炎症性腸疾患の治療も日進月歩で、大川原部長、宗像部長のみならず全てのスタッフが難治例を含む治療に対応できる体制となっています。

治療における他診療科との連携（外科、血管内治療グループ、救急科、緩和ケア内科）にも協力や応援をお願いできる良好な関係を保っており、特に外科チームと協力して行う間葉系胃腫瘍の内視鏡・腹腔鏡合同胃局所切除手術も定着しています。

３．今後の展望

現在、当科は水戸市内で最大規模の消化器内科として肝胆膵から消化管まで、急性疾患から慢性疾患、さらに悪性腫瘍まで幅広く対応ができる陣容をもっています。「この地域の方が消化器の病気で困ることがないように」を合言葉に、消化管出血や急性胆管炎などに対する２４時間体制を維持しています。今後もチーム性や当番性を活用し効率の良い診療体制を模索しながら、しっかりとした体制を確保し、地域医療への貢献をしていく所存です。

（文責　柏村　浩）

■臨床指標・統計

【入院患者数症例数】　消化器内科

症　　例	患者数	症　　例	患者数
食道疾患	54	鼠径ヘルニア	0
逆流性食道炎	2	腸間膜脂肪織炎	1
食道静脈瘤	18	肝疾患	164
食道癌	34	肝障害	10
食道内異物	0	急性肝炎	16
食道良性腫瘍	0	慢性肝炎	4
胃疾患	173	バッドキアリ症候群	0
急性胃腸炎	25	自己免疫性肝炎	9
胃ポリープ	9	原発性胆汁性胆管炎	3
胃内異物	0	原発性硬化性胆管炎	0
胃十二指腸潰瘍	31	肝硬変	16
胃血管性病変	8	肝膿瘍	8
マロリー・ワイス症候群	4	原発性肝癌	96
胃腺腫	1	転移性肝癌	0
早期胃がん	21	肝良性腫瘍	2
胃癌	58	胆道疾患	356
胃リンパ腫	0	急性胆嚢炎	57
GIST	16	急性胆管炎	62
十二指腸癌	0	胆石症	132
好酸球性胃腸症	0	胆嚢癌	11
小腸疾患	35	胆管癌	83
小腸腫瘍	1	その他の胆道疾患	11
イレウス	32	膵疾患	171
小腸潰瘍	2	急性膵炎	39
大腸疾患	656	慢性膵炎	10
大腸ポリープ	337	膵癌	104
虚血性大腸炎	21	インスリノーマ	0
大腸憩室炎	14	膵管内乳頭腫瘍	13
大腸憩室出血	45	膵腫瘍	5
消化管出血	33	その他	199
クローン病	11	脾動脈瘤	0
潰瘍性大腸炎	31	原発不明癌	2
大腸・直腸癌	129	鉄欠乏性貧血	1
出血性大腸炎	2	ベーチェット病	0
急性虫垂炎	20	その他（消化器疾患）	119
腸重積	1	その他（消化器疾患以外）	77
S状結腸軸捻転	11		
		総計	1808

■業　績

【学会・研究会発表、座長等】

1.2021年6月11日　13：50～15：50（名古屋市・Web）

第32回　日本老年学会総会

シンポジウム：高齢者のオンライン診療（コロナ禍を含め）

仁平　武、柏村　浩、生澤　義輔：一般演題「コロナ禍の一地方基幹病院の高齢者診療」

2.2021年6月25日（Web）

水戸腹部超音波診断研究会　司会：仁平　武

講演者：虎ノ門病院肝臓科医長　斎藤　聡　医師

3.2021年10月2日　15：00～18：00（東京・Web）

第11回　首都圏Liver　Forum

閉会の辞：仁平　武

4.2021年10月17日（Web）

茨城内科学会

当番幹事：仁平　武

5.2021年11月27日　14：00～16：30（水戸市、茨城県総合福祉会館）

第119回　日本消化器病学会関東地方会市民公開講座

当番幹事：仁平　武

6.2021年12月16日　18：30～21：00（水戸市、三の丸ホテル・Web）

テセントリクアバスチン講演会

総括発言：仁平　武

7.2022年2月19日　15：00～17：45（水戸市、水戸プラザホテル）

第13回　肝疾患地域連携の会

開会の辞：仁平　武

8.2022年3月12日（Web・Zoom）

千葉大学消化器内科同門会：千葉医学会例会

一般演題発表：渡部　和樹　他

消化器診断センター

1　内視鏡検査件数（内科）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年1月	2月	3月	総数
胃カメラ	251	226	329	322	333	362	398	349	397	362	315	344	3,988
胃ポリペク	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
胃EMR	1	2	0	3	2	3	1	1	0	1	1	2	17
胃ESD	3	1	4	0	2	5	2	1	0	0	1	2	21
食道EMR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食道ESD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
EUS	12	14	24	17	11	10	21	13	16	19	14	15	186
止血術	9	7	12	10	5	12	10	10	5	11	16	11	118
APC	2	0	1	0	0	0	1	1	1	1	1	0	8
EVL	1	5	1	0	2	3	1	1	2	2	1	1	20
EIS	2	0	2	2	0	0	0	1	0	2	0	3	12
異物除去	1	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	0	8
PEG	1	0	2	0	1	0	0	1	0	2	0	1	8
ステント	0	2	0	3	2	4	1	5	9	2	6	2	36
ERCP	1	3	5	3	3	6	7	6	7	6	4	4	55
ERBD	20	31	27	16	23	32	13	24	8	15	23	23	255
EST	7	8	9	6	3	4	8	6	15	8	6	12	92
採石術	3	2	1	3	2	4	1	4	4	2	1	1	28
IDUS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CF	107	92	115	110	100	107	125	112	115	93	89	107	1,272
CFポリペク	22	17	34	21	26	26	33	47	24	29	25	24	328
CF EMR	23	20	31	20	21	21	22	30	23	23	22	31	287
CF ESD	0	0	0	0	3	1	4	2	3	2	2	4	21
BFS	2	1	2	1	0	3	2	3	6	2	1	3	26
合計	482	445	624	554	551	613	672	631	652	604	544	606	6,978

2　内視鏡検査件数（外科）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年1月	2月	3月	総数
胃カメラ	14	18	19	15	15	8	12	9	2	8	12	17	149
拡張術	4	5	2	3	0	2	0	0	0	0	0	0	16
止血術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CF	10	8	11	11	9	7	8	9	3	3	10	10	99
CFポリペク	5	0	3	3	2	4	2	0	0	1	4	2	26
CF EMR	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
合計	37	37	38	36	28	23	22	18	5	12	29	30	315

外　科

1　担当スタッフ

主任部長　丸山　常彦

部長　加藤　修志

部長　東　和明

部長　金子　宜樹

部長　池口　文香

医員　永井　志歩

2021年4月から筑波大学消化器外科グループ（主任教授　小田竜也）から後期研修医2人池口文香、永井志歩が派遣され、昨年度のスタッフ丸山常彦、加藤修志、東和明、金子宜樹を含めて6人の常勤医体制となった。2人の非常勤医師（春日、中橋）による診療も引き続き大きな支えとなっている。

2　診療の概況

消化器悪性腫瘍に対する手術を中心に、消化器良性疾患および消化器救急疾患に対する外科的治療を行っている。今年度は、常勤医数が充実したため、緊急手術症例の受け入れも積極的に行った。手術件数の目標を500例としたが、コロナ禍もあり手術件数の増加にブレーキがかかったが、483例となり目標件数に近づくことができた。

ソフト凝固、Bi-Clumpのアムコ電気メスVIO 3、腹腔鏡手術システムElite 2（ICG赤外線カメラ付き）を新しく購入した。ICGによる消化管の血流評価は有用で、術後縫合不全の減少につながっていると思われる。また絞扼性腸閉塞や非閉塞性腸管虚血症の手術において切除の判断や切除範囲の決定にも用いている。

3　今後の展望

常勤医数の増加に伴い、手術件数の増加を目指したい。保険診療が可能となったロボット支援手術の導入も今後の大きな課題である。

■臨床指標・統計

手術症例（2021 年 4 月～ 2022 年 3 月）　　　　（ ）は腹腔鏡下手術

悪性疾患				良性疾患			
食道胃接合部癌	1	（0）	件	胃潰瘍・穿孔	1	（0）	件
胃癌	31	（9）	件	十二指腸潰瘍・穿孔	2	（1）	件
結腸癌	65	（44）	件	結腸・直腸憩室・穿孔	10	（1）	件
直腸癌	22	（20）	件	結腸膀胱瘻	2	（2）	件
肝癌（転移含む）	9	（0）	件	胆道疾患（胆嚢結石症、総胆管結石症等）	108	（93）	件
胆道癌	11	（3）	件	虫垂炎手術	36	（34）	件
膵癌	3	（0）	件	ヘルニア手術（鼠径、大腿、腹壁瘢痕等）	97	（31）	件
乳癌	8	（0）	件	腸閉塞手術	16	（2）	件
ＧＩＳＴ	6	（4）	件	人工肛門造設・閉鎖	5	（0）	件
その他（小腸癌、虫垂癌、甲状腺癌、悪性リンパ腫等）	25	（11）	件	ＣＶポート挿入・抜去	4	（0）	件
				その他	21	（8）	件
				合計	483	（263）	件

■業　績

【論文】

1．Yoshiki Kaneko, Katsuji Hisakura, Koichi Ogawa, Yoshimasa Akashi, Yusuke Ohara, Yohei Owada, Tsuyoshi Enomoto, Kinji Furuya, Shoko Moue, Manami Doi, Kazuhiro Takahashi, Osamu Shimomura, Shinji Hashimoto, Noriaki Sakamoto, Tsunehiko Maruyama, Tatsuya Oda. Long-term survival after esophagectomy with distal pancreatectomy for locally advanced esophageal cancer with pancreatic invasion: a case report. Surgical case Report. 2021; 14; 7(1): 254. DOI: 10.1186/s40792-021-01338-w. PMID: 34905130

2．金子宜樹、丸山常彦、東　和明、加藤修志、小田竜也 . エコーガイド下整復後、腹腔鏡下修復術を施行した閉鎖孔ヘルニアの１例 . 日本外科系連合学会誌 . 2021; 46(5): 630-634.

3．Gaku Chiguchi, Haruhiko Cho, Shinsuke Sato, Tsuyoshi Takahashi, Kazuhito Nabeshima, Tsunehiko Maruyama, Mikinori Kataoka, Sou Katayanagi, Hirotoshi Kikuchi. Impact of preoperative tumor rupture timing on gastrointestinal stromal tumor prognosis: a retrospective multicentric cohort study. Japan Journal of Clinical Oncology. 2022; 52 (3) :237-243. DOI: 10.1093/jjco/hyab200. PMID: 34933335

[著書]

1．丸山常彦
栄養療法の基礎：栄養不良の病態生理
日本臨床栄養代謝学会　JSPEN テキストブック　一般社団法人　日本臨床栄養代謝学会編
南江堂　120-125, 2021

【学会発表】

1．丸山常彦、金子宜樹、加藤修志、東　和明、酒向晃弘、上田和光、小田竜也：残胃癌に対する根治手術後の予後規定因子の検討 . 第 121 回日本外科学会定期学術集会　一般演題ポスター（千葉、幕張）2021 年 4 月 8-10 日

2．高橋彩月、仁平　武、廣澤拓也、今井雄史、金野直言、宗像紅里、大川原　健、青木洋平、柏村　浩、高久秀哉、丸山常彦：肝細胞癌自然退縮の一例 . 第 364 回日本消化器病学会関東支部例会　一般演題口演（web）2021 年 4 月 24 日

3．池澤和人、金森毅重、矢部義人、丸山常彦、湯地晃一郎、柳橋祐一、中川隆広、廣瀬充明、鈴木英雄：脳梗塞治療における早期栄養開始および早期強化リハビリ療法の ADL 改善傾向：機械学習を用いた傾向スコア分析 . 第 3 回日本メディカル AI 学会学術集会一般演題口演（Web）2021 年 6 月 11 ー 12 日

4．丸山常彦、明石義正、金子宜樹、加藤修志、東　和明、酒向晃弘、上田和光、小田竜也：リンパ節転移率が低値な stage IIIA 胃癌治癒切除症例は S-1 のみの術後補助化学療法で予後が良好である . 第 76 回日本消化器外科学会総会　要望演題口演（京都、京都）　2021 年 7 月 7-9 日

5．丸山常彦、三好一伸、生澤義輔：公表されている DPC データを元に手術実績を可視化する . 第 23 回日本医療マネジメント学会学術総会　一般演題口演（Web）　2021 年 7 月 15-30 日

6．池澤和人、金森毅重、丸山常彦、小關　剛、長澤俊郎：脳梗塞治療への早期栄養とリハビリ併用の有効性検証：機械学習による傾向スコア分析 . 第 23 日本医療マネジメント学会学術総会 一般演題口演（Web） 2021 年 7 月 15 － 30 日 最優秀演題賞

7．白土　薫、河野直弘、小泉雅子、武田久美子、東　和明、丸山常彦：経鼻胃管の細径化への啓蒙活動 . 第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会　要望演題口演（兵庫、神戸）　2021 年 7 月 21-22 日

8．武田久美子、東　和明、丸山常彦：NST が介入した血液透析患者への栄養管理の現状と課題 . 第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会　要望演題口演（兵庫、神戸）　2021 年 7 月 21-22 日

9．池澤和人、阿部真由美、矢部義人、藤原　淳、丸山常彦：脳梗塞患者における早期食事開始指示への影響因子：DPC データを用いた xgboost による feature importance 分析 . 第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会　パネルディスカッション（兵庫、神戸）　2021 年 7 月 21-22 日

10. 永井志歩、池口文香、金子宜樹、東　和明、加藤修志、丸山常彦、小田竜也：単孔式腹腔鏡下小腸部分切除術を施行した小腸平滑筋肉腫の 1 例 . 第 366 回日本消化器病学会関東支部例会　専攻医口演（web） 2021 年 9 月 18 日

11. 東　和明、丸山常彦、中村隆二、飯村勝成、永井志歩、池口文香、金子宜樹、加藤修志：虫垂癌術後の補助化学療法中に葉酸欠乏症を呈した一例 . 第 8 回日本臨床栄養代謝学会関越支部学術集会　一般演題口演（Web）2021 年 10 月 10 日

12. 永井志歩、池口文香、金子宜樹、東　和明、加藤修志、丸山常彦、宗像紅里、今井雄史、大谷明夫、小田竜也 . 第 249 回茨城外科学会　一般演題口演（Web）2021 年 11 月 13 日

13. 丸山常彦、金子宜樹、加藤修志、東　和明、池口文香、永井志歩、酒向晃弘、上田和光、小田竜也：stage IIIA 胃癌治癒切除症例の予後予測因子の検討　第 2 報 . 第 83 回日本臨床外科学会総会　ワークショップ（東京、新宿）　2021 年 11 月 18-20 日

14. 丸山常彦、金子宜樹、加藤修志、東　和明、池口文香、永井志歩、小田竜也：アジアサルコペニアワーキンググループ（AWGS）サルコペニア診断基準 2019 による消化器悪性疾患手術症例の周術期評価 . 第 83 回日本臨床外科学会総会　ワークショップ（東京、新宿）　2021 年 11 月 18-20 日

15. 池澤和人、廣瀬充明、鈴木英雄、丸山常彦、金森毅重、柳橋祐一、中川隆広、湯地晃一郎：早期強化リハビリの有効性検証：XGBoost を用いた傾向スコア分析 . 第 21 回日本クリニカルパス学会学術集会　一般演題口演（山形、山形）2021 年 11 月 26-27 日

16. 永井志歩、池口文香、金子宜樹、東　和明、加藤修志、丸山常彦、小田竜也：内視鏡的に診断し得た多発小腸憩室出血の 1 例 . 第 58 回日日本腹部救急医学会総会　一般演題口演（東京、新宿）2022 年 3 月 24-25 日

[講演]

1．丸山常彦：がん悪液質 . 第 24 回株式会社日立製作所日立総合病院　地域がんセンター勉強会（茨城、日立） 2021 年 10 月 28 日

2．丸山常彦：消化器病外科治療 . 第 119 回株日本消化器病学会関東支部　市民公開講座（茨城、水戸） 2021 年 11 月 27 日

[座長]

1．丸山常彦：要望演題 周術期栄養管理（ERAS を含む）1. 第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会（兵庫、神戸）2021 年 7 月 21 日
2．丸山常彦：共済セミナー . 第 8 回株日本臨床栄養代謝学会関越支部学術集会（web） 2021 年 10 月 10 日
3．丸山常彦：みらいを創る Kampo ウェビナーシリーズ（web） 2021 年 10 月 12 日
4．丸山常彦：茨城水戸エリア胃癌治療 Web セミナー（web） 2021 年 10 月 26 日
5．丸山常彦：ワークショップ　サルコペニア・低栄養：高齢者時代に我々はなにを考えるべきか②. 第 83 回日本臨床外科学会総会（東京、新宿） 2021 年 11 月 20 日
6．丸山常彦：外科領域の便秘を考える会（web） 2022 年 1 月 11 日

[研究費]

科研費　基盤 C 「AI を用いた入院日数管理支援システムの開発―消化器癌の周術期 DPC データ探索」研究代表者：丸山常彦（済生会保健・医療・福祉総合研究所研究部門　客員研究員） 2022 年度～ 2024 年度

➤血液浄化センター

◆ 腎 臓 内 科

1　担当スタッフ

主任部長　海老原　至
部長　佐藤　ちひろ
部長　黒澤　洋
部長　荷見　祥子
部長　椎名　映里
医員　武原　瑠那
医員　大場　憲正

2　概況

水戸地区・県央地域の総合病院の１科として検尿異常から各種腎炎や保存期腎不全の治療、腎不全に対する透析療法の導入・維持透析とシャントトラブルをはじめとした腎不全合併症、及び各種血液浄化療法を担当しています。また、水戸市や水戸市医師会と連携した慢性腎臓病早期発見のための、健診受診率向上を目的の一つとした研修会や市民啓発活動にも力を入れています。常勤医は７名で日本腎臓学会認定施設、日本透析医学会認定施設、日本アフェレシス学会認定施設に指定されています。2021 年度は 2020 年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、可能な限り入院や治療・処置・透析を制限しました。

■臨床指標・統計

【新入院患者数と原疾患】（のべ数ではない）
平均在院日数　16.9 日（2020 年度は 13.3 日）

入院患者原疾患	2021 年度	2020 年度	2019 年度	2018 年度	2017 年度
急性腎不全	35	41	30	41	28
慢性腎不全	236	218	251	253	215
透析合併症	232	314	645	616	521
急性・慢性腎炎・ネフローゼ	93	88	138	107	145
その他	13	8	20	17	16
計	609 名	669 名	1084 名	1034 名	925 名

【腎生検件数と組織像】

組織診断	2021 年度	2020 年度	2019 年度	2018 年度	2017 年度
IgA 腎症	41	26	28	13	40
膜性腎症	8	9	8	7	6
微小変化群	10	8	7	7	13
巣状糸球体硬化症	1	1	0	2	4
ANCA 関連腎炎	2	2	2	2	2
ループス腎炎	1	2	5	3	0
その他	13	10	6	5	4
計	76 件	58 件	56 件	39 件	69 件

【新規透析導入患者数の原疾患】

導入原疾患	2021 年度	2020 年度	2019 年度	2018 年度	2017 年度
糖尿病性腎臓病	54	53	58	61	54
慢性腎炎・血管炎	19	18	23	28	17
腎硬化症	37	37	44	38	37
多嚢胞腎	4	2	3	2	5
その他	13	3	5	4	6
計	127 名	113 名	133 名	133 名	119 名
うち腹膜透析導入患者数	6 名	1 名	3 名	6 名	2 名

【月別紹介透析合併症新入院患者数】（他科入院を含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2017年度	59	58	53	58	59	67	67	83	66	68	73	72	783名
2018年度	75	77	86	90	75	58	89	87	72	82	76	75	942名
2019年度	98	93	87	89	79	88	92	77	83	71	78	90	1025名
2020年度	64	52	103	67	33	37	45	49	53	50	36	50	639名
2021年度	57	51	41	43	44	55	48	47	39	42	41	55	563名

【その他の血液浄化療法のべ件数】

	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度
血液浄化療法	のべ件数	のべ件数	のべ件数	のべ件数	のべ件数
顆粒球除去療法	10	20	0	8	4
白血球除去療法	0	0	0	0	7
血漿交換療法	2	2	12	0	0
二重膜濾過法	0	4	5	0	0
ビリルビン吸着療法	0	0	0	0	0
LDL 吸着療法	0	8	11	4	11
エンドトキシン吸着	10	9	13	3	7
直接血液灌流法	0	1	5	0	1
持続濾過透析法	206	296	361	265	254
計	228	340	407	280	284

【手術・血管内治療】（腎臓内科が担当したもの）

	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度（件）	2017年度（件）
シャント作成術	203	237	284	300	212
人工血管移植術	41	26	41	31	44
PTA	536	452	366	390	305
シャント血管造影	27	22	42	50	78
その他(瘤切除・血栓除去など)	15	25	63	33	32
腹膜透析カテーテル挿入及び抜去	6	8	9	9	17
長期留置カテーテル挿入	24	28	17	18	12

腎機能障害を基礎疾患とする患者は新型コロナウイルス感染症が重症化しやすく、致死率も高いことが知られているため、他院からの透析を含む腎機能障害患者の受け入れを引き続き制限したため、新入院患者数をはじめ多くの項目に2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響がでました。学会活動も制限され、水戸市を中心とする地域住民の皆様に慢性腎臓病の存在を啓発し、健診受診率や病院受診率を向上させて疾患の早期発見・治療に寄与することを目的として年に1回行っている水戸内原イオンモールでのイベントは2021年度も中止せざるをえませんでした。

■業　績

【学会発表】

1．黒澤　洋：血管損傷並びに狭窄病変に対して VAIABAHN stent-graft を使用した症例．第 66 回日本透析医学会学術集会（横浜）2021 年 6 月
2．椎名　映里：当院における維持透析導入時に心房細動を有する患者の診療状況とワーファリン内服による重大合併症．第 64 回日本腎臓学会学術総会（横浜）2021 年 6 月
3．武原　瑠那：ANCA 関連血管炎と結腸癌の併発を認めた一例．第 51 回日本腎臓学会東部学術大会（web）2021 年 9 月
4．大場　憲正：セフェピム脳症を発症した透析患者の一例．第 218 回茨城県内科学会（水戸）2021 年 10 月
5．黒澤　洋：当院での血管損傷並びに狭窄病変に対して VIABAHN stent-graft を使用した経験．第 25 回日本アクセス研究会学術集会・総会（web）2021 年 11 月

【研究会】

1．黒澤　洋：クローン病と腎結石により急性腎不全をくり返すため内服調整した一症例．第 68 回茨城腎研究会（web）2021 年 4 月
2．海老原　至：透析導入時データから見る保存期腎不全管理について．腎・透析カンファレンス（web）2021 年 5 月
3．海老原　至：腎症合併 2 型糖尿病治療について．腎症合併 2 型糖尿病治療について考える（web）2021 年 6 月
4．海老原　至：県央地区の慢性腎臓病地域連携の現状．第 12 回つくば腎不全病態研究会（web）2021 年 9 月
5．海老原　至：透析導入までの慢性腎臓病治療．腎性貧血 web セミナー for pharmacist（web）2021 年 11 月
6．海老原　至：COVID-19 透析患者の対応と経過について．CKD NEXT STRATEGY WEB シンポジウム（web）2022 年 2 月
7．海老原　至：水戸地区での慢性腎臓病病診連携について．霞南 CKD 連携セミナー（web）2022 年 3 月
8．武原　瑠那：高齢 CKD 患者カリウムコントロールにおける工夫．第 8 回今後の腎臓医療を考える（web）2022 年 3 月
9．海老原　至：基調講演．第 4 回済生会透析セミナー in 水戸（水戸）2022 年 3 月

【講演会・市民講座】

1．海老原　至：腎性貧血の病態と治療の重要性．常陸太田市医師会学術講演会（web）2021 年 9 月
2．海老原　至：当院における COVID-19 透析患者の対応と経過について．透析施設災害対策講演会（web）2021 年 10 月
3．海老原　至：腎臓病の予防について．水戸市市民講座（腎臓病予防教室）（水戸）2022 年 1 月
4．海老原　至：糖尿病性腎臓病～病診連携の実際と課題～．常陸太田市医師会学術講演会（web）2022 年 3 月

【座長等】

1．海老原　至：第４回 CKD-MBD サミット（web）2021 年４月
2．海老原　至：つくば PKD 学術講演会（つくば）2021 年４月
3．海老原　至：水戸市医師会学術講演会～ DKD 連携セミナー～（水戸）2021 年５月
4．海老原　至：県央地区高尿酸血症フォーラム（水戸）2021 年５月
5．海老原　至：腎性貧血治療の病診連携を考える会（web）2021 年６月
6．海老原　至：地域で診る CKD 連携講演会（web）2021 年７月
7．黒澤　洋：三の丸腎臓病研究会（水戸）2021 年９月
8．海老原　至：ウパシタ新発売記念講演会（水戸）2022 年１月
9．海老原　至：第８回今後の腎臓医療を考える（web）2022 年３月
10. 海老原　至：第４回済生会透析セミナー in 水戸（水戸）　2022 年３月
11. 佐藤　ちひろ：第４回済生会透析セミナー in 水戸（水戸）2022 年３月

➢総合周産期母子医療センター

◆ 産 婦 人 科

1　担当スタッフ

主任部長	藤木　豊
部長	山田　直樹
部長	中村　佳子
部長	人見　義郎
部長	飯場　萌絵
部長	佐々木　怜子
部長	鈴木　あすか（2021年4月1日より）
医員（研修医）	関　ももこ（2021年4月1日より）
医員（研修医）	宮本　和恵（2021年4月1日より）
医員（研修医）	伊東　菜摘（2021年4月1日より）
非常勤医	佐藤　豊実、漆川　邦、越智　寛幸、細川　義彦

令和3年4月1日に、平澤亮子専攻医、宮代夢子専攻医と施　惠子部長の異動退職後継として、専攻医である関ももこ、宮本和恵、伊東菜摘と、婦人科専門医である鈴木あすか部長の4名が常勤医として着任した。こうして4月1日以降常勤医数は9名から10名に増員となっている。他、毎月のように水戸協同病院、県立中央病院、水戸医療センター病院、筑波記念病院、筑波大学の初期研修医や、当院の初期研修医が2－3名ローテーション研修のため在籍していたのは例年通りである。

2　診療の概況

産科診療について、当科は引き続き県央・県北地域の中核病院として、第三次医療機能をもつ総合周産期母子医療センターとしての役割を一手に引き受けている。母体搬送受け入れ（救急車による緊急転院搬送）件数については123件と前年比92%とやや減少した。一方でハイリスク患者の外来紹介であるハイリスク搬送については353例（前年比110%）と増加した。取り扱い分娩数546件は、前年比102%とほぼ同程度ではあったが、2019年度と比較すると約1割減となっており、新型コロナ感染症の影響が示唆される。残念ながら分娩件数は2012年の666分娩をピークに過去9年ほどは減少傾向が持続している。近年茨城県内では産婦人科開業医の分娩取り扱いが複数施設で中止されているが、当院への影響は現時点では限定的である。令和3年4月より、日立総合病院の地域周産期センターとしての機能が12年ぶりに再開されたが、当初再開できる周産期機能は小児・新生児領域のみとのことで、県北地域からのハイリスク患者紹介数については、産科領域に於いてはさほど変わらなかった。

令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナ感染症の対応に取り組んだ1年であった。茨城県では新

型コロナ妊産婦について2020年7月に受け入れシステムが整備され、県入院調整本部の周産期入院コーディネーターを主任部長である藤木が担当した。県内では新型コロナ第5波までは、妊産婦の陽性患者は少数で推移していたが、オミクロン株に移行した第6波以降に妊産婦の陽性者が著増した。陽性妊産婦については主に自宅療養が選択され、分娩期の妊産婦については感染症指定医療機関での対応が行われたが、結果的には当科にはさほど診療負荷はかからなかった。新型コロナに関する診療は現在も進行中であり、今後も数年は気の抜けない状況が継続するものと覚悟している。当院の内部では、月曜と木曜の発熱外来について産婦人科医が交代で対応にあたった。

4月からの常勤医数の増加に伴い、従来は外部からの非常勤医師に委ねていた当院総合健診センターでの婦人科がん検診について、当科常勤医で主に対応することとした。

勤務医、特に産科領域の劣悪な労働環境が一般にも認知されるようになり、その環境改善が推奨されるようになって久しい。当科では人員拡充も手伝い、交代勤務制の導入を開始したことなど働き方改革に積極的に取り組んでいる。

3　今後の展望

当科の存在意義でもある周産期救急への対応については、診療レベルを維持し、また向上を図っていきたい。減りつつある分娩数については、当院担当地域の人口動態の影響が大きいとは思われるものの、地域の期待にこたえ続けることで信頼を勝ち取り増加に転じてゆきたい。スタッフ数の充足を受けて、働き方改革を進めること、非常勤医師削減による収益改善を図ること、診療ボリュームの増加に取り組んでいきたい。

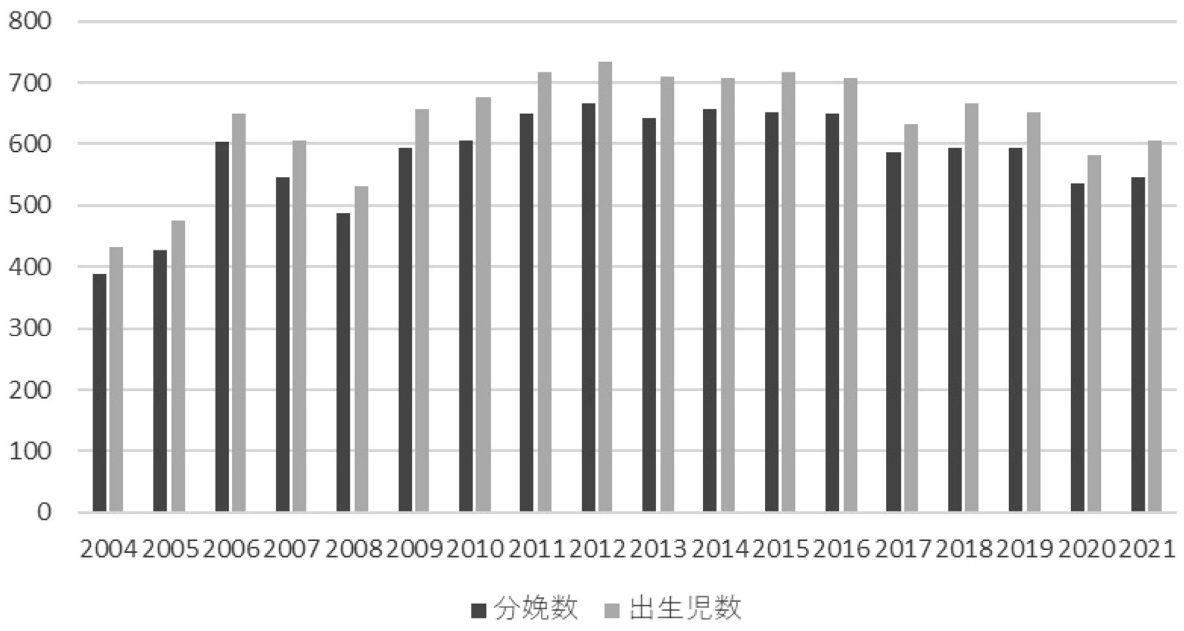
（文責　藤木　豊）

■臨床指標・統計

産科統計

1．分娩数および出生児数の年次推移

2021 年　分娩件数　546 件　出産児数 607 児



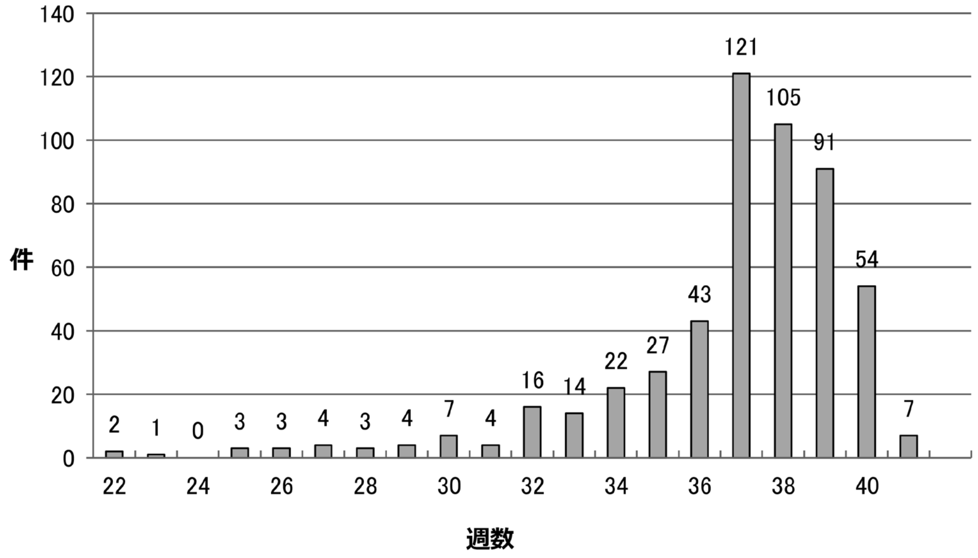
2．分娩　（　）内は 22 週以降

分娩総数	546 件	(531 件)
単胎	485 件	(472 件)
双胎	59 件	(57 件)
品胎	2 件	(2 件)

3．総出生児数　（　）内は 22 週以降

総出産児数	607 児	(592 児)
出生児数	585 児	(587 児)
死産児数	22 児	(5 児)

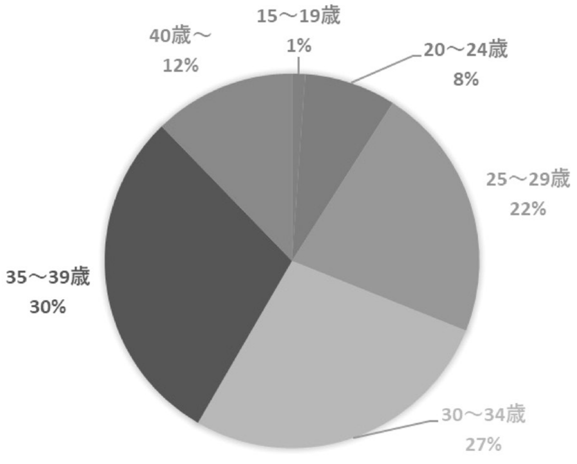
4．分娩週数　526 件（22 週以降）



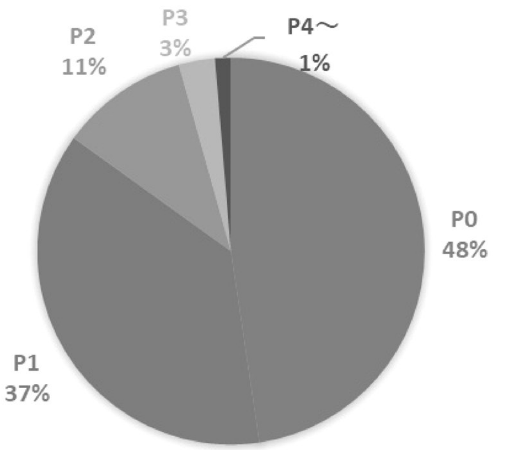
28 週未満の早産件数　　13 件

37 週未満の早産件数　　153 件　（28 週未満含む）

５．母体年齢、経産回数（22 週以降）

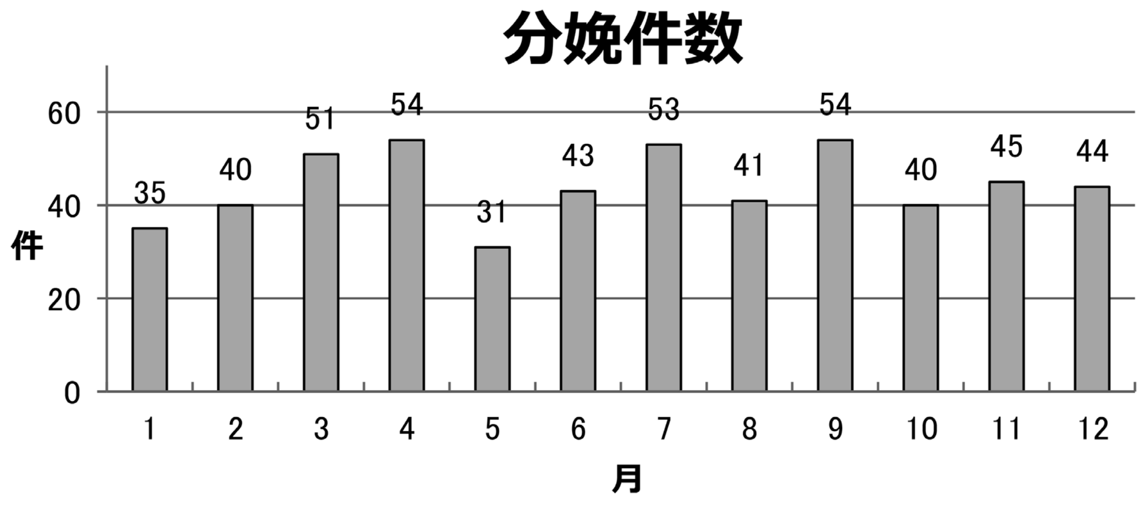


母体年齢

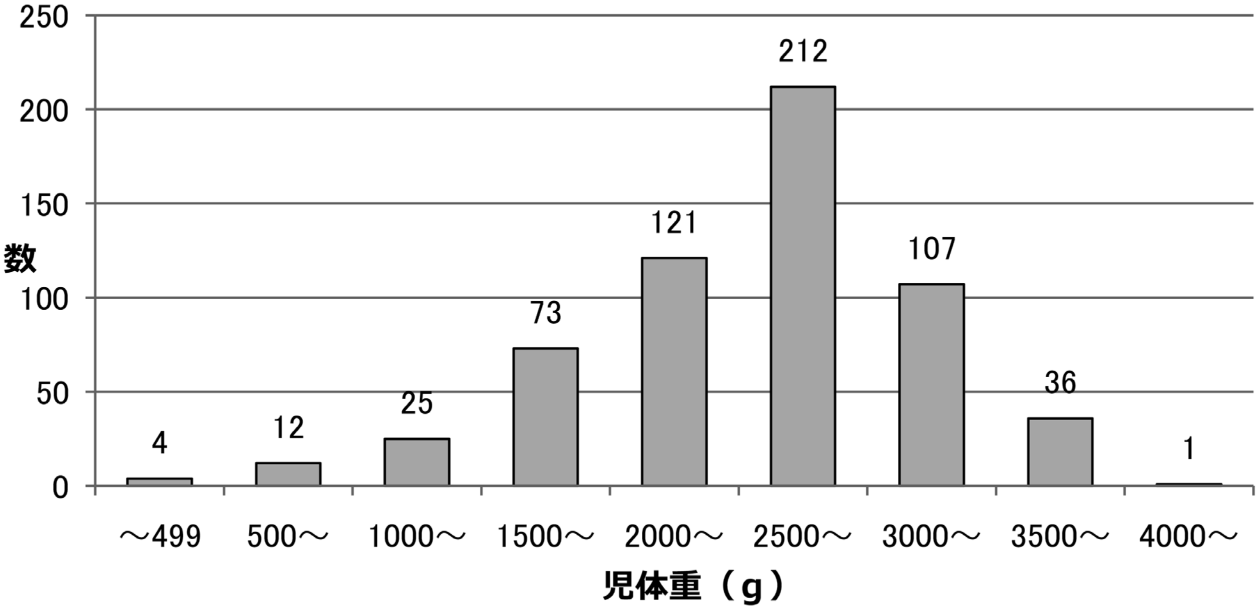


経産回数

６．月別分娩件数（22 週以降）



7．児体重分布（22 週以降）



低出生体重児　（2,500g 未満）　214 児　（うち双胎児 47 児　品胎児 2 児）
極低出生体重児（1,500g 未満）　35 児　（うち双胎児 4 児　品胎児 3 児）
超低出生体重児（1,000g 未満）　16 児　（うち双胎児 3 児）

8．分娩様式（22 週以降）

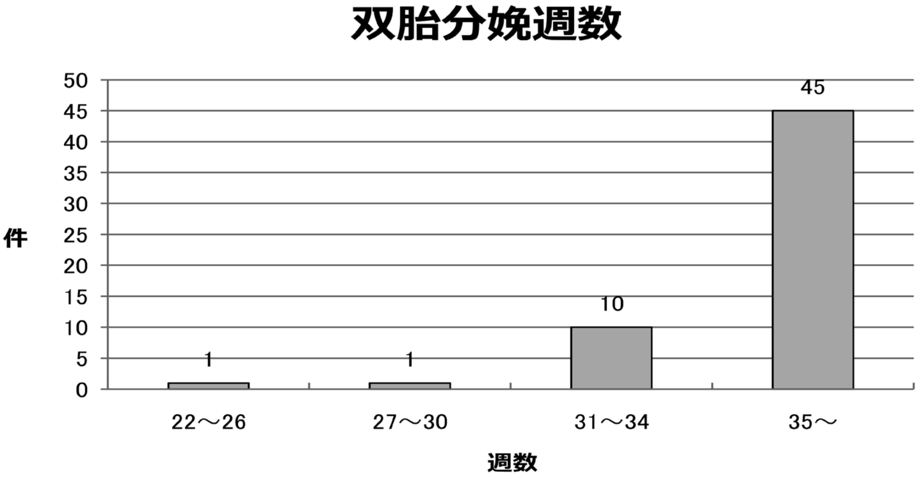
a. 単胎	475 件	
正常分娩	261 件	
骨盤位分娩	0 件	
吸引分娩	16 件	
NRFS	11 件	
分娩停止	5 件	
母体適応	0 件	
鉗子分娩	3 件	
NRFS	1 件	
分娩停止	2 件	
帝王切開分娩	189 件	単胎帝切率：39.79%（緊急 70 件）
うち体部横切開	0 件	
逆 T 字切開	4 件	
同時単純子宮全摘	5 件	（全前置癒着胎盤 3 件）
後日単純子宮全摘	0 件	
Still birth	5 件	

【適応一覧（重複あり）】

既往帝王切開	85 件
前置胎盤（低置胎盤を含む）	35 件
癒着胎盤	4 件
NRFS	34 件
分娩停止	11 件
Failed induction	5 件
重症妊娠高血圧症候群	4 件
常位胎盤早期剥離	2 件
胎位異常	28 件
CPD	3 件
臍帯下垂・脱出	1 件
コンジローマ	1 件
子宮筋腫核出・子宮形成術後	5 件
母体合併症	4 件
胎児異常	3 件
絨毛膜羊膜炎	1 件
前回 4 度裂傷	0 件
子宮破裂	0 件

b. 双胎　57 症例（22 週以降）

一絨毛膜一羊膜性双胎	0 件
一絨毛膜二羊膜性双胎	20 件
二絨毛膜二羊膜性双胎	37 件



経腟分娩	7 件	
経腟分娩＋吸引分娩	1 件	
吸引分娩＋経腟分娩	1 件	
経腟分娩＋帝王切開分娩	0 件	
鉗子分娩＋経腟分娩	0 件	
鉗子分娩＋吸引分娩	0 件	
Still birth ＋経腟分娩	0 件	
Still birth	0 件	
帝王切開分娩	48 件	双胎帝切率：84.21％（緊急 14 件）
Still birth	0 児	

【適応一覧】（重複あり）

elective	20 件
胎位異常	22 件
既往帝王切開	5 件
胎児異常	1 件
分娩停止	2 件
常位胎盤早期剥離	0 件
周産期心筋症	0 件
Ⅳ度裂傷既往	0 件
NRFS	0 件
前置胎盤	3 件
妊娠高血圧腎症	1 件
	0 件

c. 品胎　２症例

帝王切開分娩　2 件

９．周産期死亡

22 週以降の総出生児数　588 児
22 週以降の胎児死亡数　5 児
（うち 28 週以降の胎児死亡数（後期死産）3 児）

胎児異常　1 例（1 例）（potter 1）
胎盤異常　2 例（2 例）（早剝 2 例）
臍帯異常　1 例（0 例）
原因不明　1 例（1 例）

生後 7 日未満の新生児死亡数（早期新生児死亡）　5 児

胎児異常　1 例
GBS 感染　0 例
双胎Ｉ児早産　0 例
22 週早産　1 例（双胎）
常位胎盤早期剥離　0 例

周産期死亡率
（22 週以降の胎児死亡数 + 早期新生児死亡数）/（22 週以降の総出生児数）× 1000 = 17（前年　12.2）
（全国平均　3.7、　2015 年）

10．母体死亡　1 例

※病院外分娩（院外で胎盤娩出　3 件）は分娩としてカウント（記載）せず

※品胎の減退術後（品胎→単体）は単体として扱った。

母体搬送統計

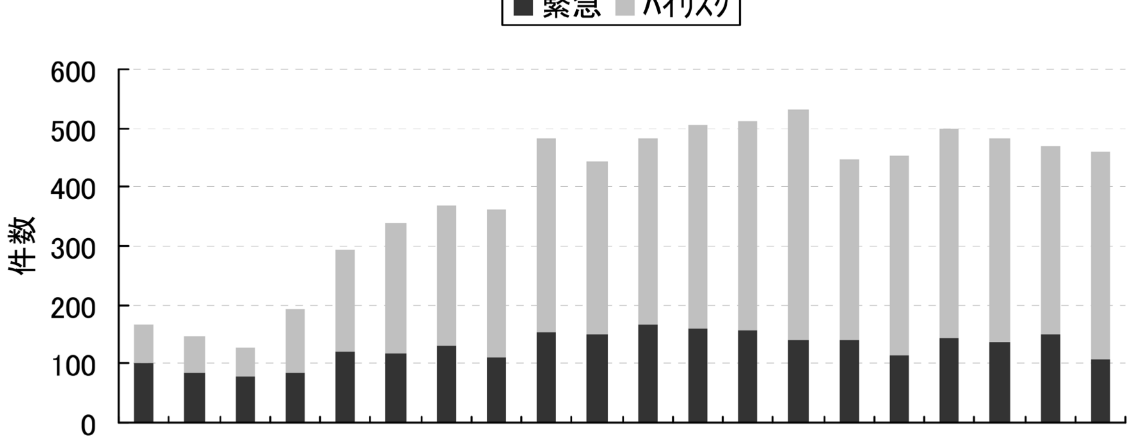
１．母体搬送件数

母体搬送　476 件　（緊急搬送　106 件、ハイリスク搬送　353 件、救急車　17 件）

分娩件数　287 件　（妊娠 22 週以降、～ 12/31）

出生児数　334 人　（双胎 37 件　品胎 2 件　SB 3 人　院外出生 6 人含む）

２．母体搬送の年次推移



３．搬送理由

①緊急母体搬送　106 件（A-C：重複なし、1-15：重複あり）

A. 胎児適応によるもの	62 件
B. 母体・胎児適応によるもの	18 件
C. 母体適応によるもの	26 件

----

1. 早産症候群	57 件
2. NRFS	15 件
3. 産科出血	11 件
4. 妊娠高血圧症候群	8 件
5. FGR	7 件
6. 前置胎盤、低置胎盤	4 件
7. 多胎	4 件
8. 糖尿病合併妊娠	4 件
9. 常位胎盤早期剝離	3 件
10. COVID-19 感染	3 件
11. 胎盤遺残	2 件
12. 腟壁血腫 / 外陰血腫	2 件
13. 血液型不適合妊娠	2 件
14. 甲状腺疾患合併妊娠	2 件
15. 肺塞栓症 /DVT	2 件
16. その他（腎盂腎炎、胎児異常、羊水量異常、意識障害、心肺停止、母体腰椎椎間板症、母体上室性頻拍等）	9 件

②救急車より直接搬送　17 件

1. 自宅分娩	5 件
2. 飛び込み分娩	4 件
3. 交通外傷	3 件
4. その他	5 件

③非緊急母体搬送（ハイリスク搬送）　532 件（重複あり）

1. 内科疾患合併	62 件
2. 胎児異常	60 件
3. 多胎妊娠	60 件
4. 前回帝王切開（1-2 回）、子宮術後妊娠	49 件
5. 高齢妊娠（≧ 40 歳）	43 件
6.FGR	37 件
7. 婦人科疾患合併	36 件
8. 前置胎盤、低置胎盤	35 件
9. 里帰り分娩	35 件
10.GDM・糖尿病合併妊娠	29 件
11. 前回妊娠・分娩ハイリスク	24 件
12. 肥満（BMI ≧ 30）	13 件
13. 早産症候群	13 件
14. 妊娠高血圧症候群	11 件
15. 不規則抗体陽性・Rh 不適合	5 件

16. 前 3 回帝王切開以上　4 件
17. 羊水量異常　4 件
18. 精神疾患合併妊娠　3 件
19. 前児異常　3 件
20. その他（子宮奇形、社会的ハイリスク、不育症、母体水腎症、NRFS、甲状腺疾患術後）　6 件

４．母体搬送受け入れ不能症例

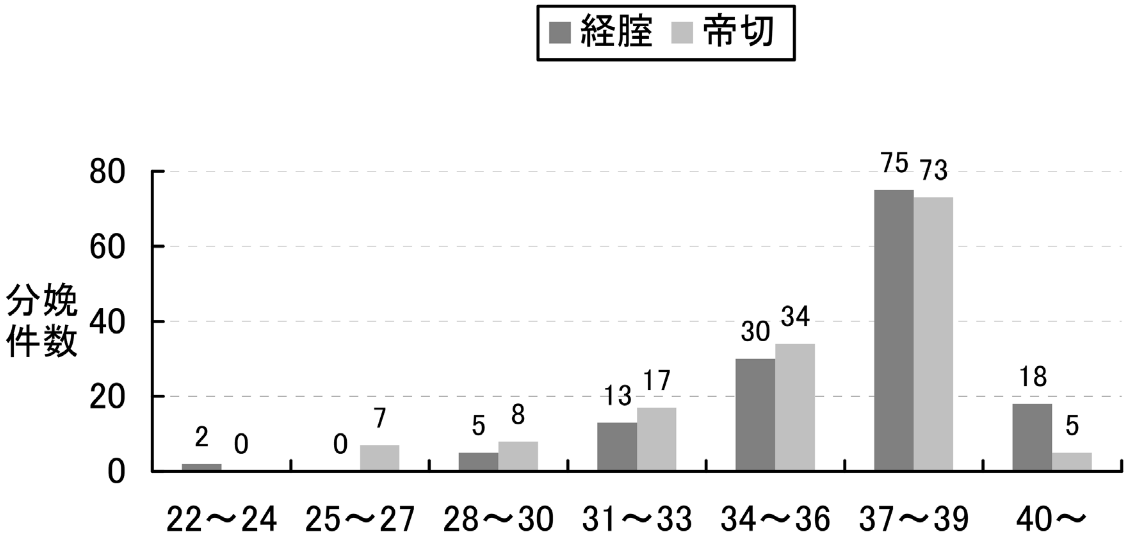
①腟壁血腫（手術中のため水戸赤十字病院へ依頼）
②妊娠 35 週、pretermPROM、陣発（経産婦のため日立総合病院へ依頼）
③腟壁血腫（COVID-19 感染症対応中のため県立中央病院へ依頼）
④弛緩出血、出血性ショック（ショックのため県立中央病院へ依頼）

５．分娩様式（妊娠 22 週以降、～ 12/31、死産を含む）

分娩件数　287 件
帝王切開分娩　144 件
母体搬送「当日」緊急帝切　12 件
母体搬送「翌日」緊急帝切　3 件
経腟分娩　143 件

６．分娩時週数

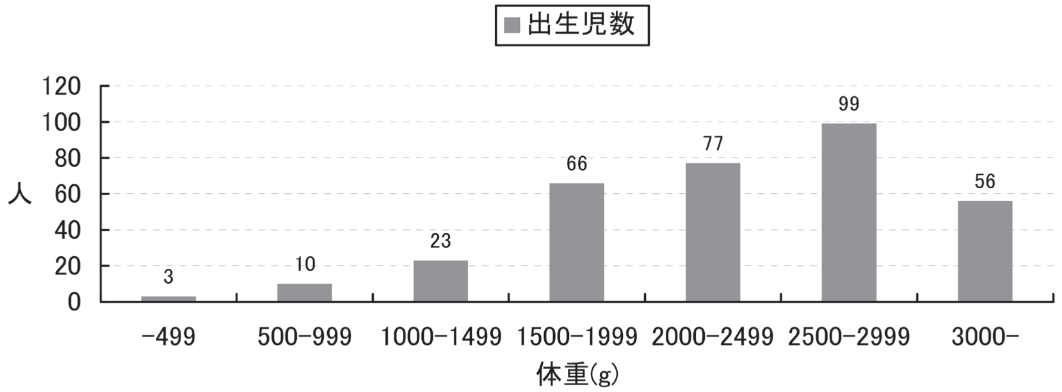
分娩件数　287 件（妊娠 22 週以降、～ 12/31、死産を含む）
帝王切開分娩　144 件
経膣分娩　143 件



７．出生体重

出生児数 334 人（妊娠 22 週以降、12/31）

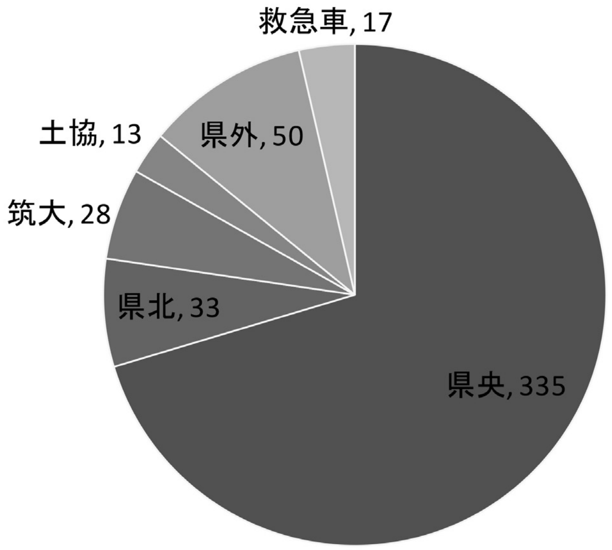
双胎 37 件、品胎 2 件、SB 3 人、院外出生 6 人含む



８．搬送依頼地区（搬送依頼施設）

県央　335 件					
植野産婦人科医院	55	ひたちなか母と子の病院	44	加瀬病院	43
石渡産婦人科病院	40	小松崎産婦人科	26	根本産婦人科	25
江幡産婦人科病院	17	水戸日赤病院	12	おおぬき ART クリニック	11
はやかわクリニック	10	青木医院	10	小浜産婦人科	9
県立中央病院	8	鈴木産婦人科医院	6	岩崎病院	5
山縣産婦人科	4	ひろこレディースクリニック	4	はらレディースクリニック	3
冨田産婦人科医院	2	あすくレディスクリニック	1		
県北　33 件					
高萩協同病院	15	日立総合病院	8	瀬尾医院	5
北茨城市立総合病院	3	福地レディスクリニック	2		
筑波大学エリア　28 件					
つくば木場公園クリニック	6	筑波大学附属病院	4	筑波学園病院	3
秋葉産婦人科病院	3	西南医療センター	2	遠藤産婦人科医院	2
つくば ART クリニック	2	総合守谷第一病院	1	なないろレディスクリニック	1
庄司産婦人科小児科医院	1	池羽レディースクリニック	1	宇津野医院	1
船橋レディスクリニック	1				
土浦協同病院エリア　13 件					
小塙医院	9	葉山産婦人科	2	小山記念病院	1
東京医科大学霞ヶ浦医療センター	1				

県外	50	中央クリニック	4	加藤レディスクリニック	4
		Natural ART clinic 日本橋	2	等	
救急車	17				

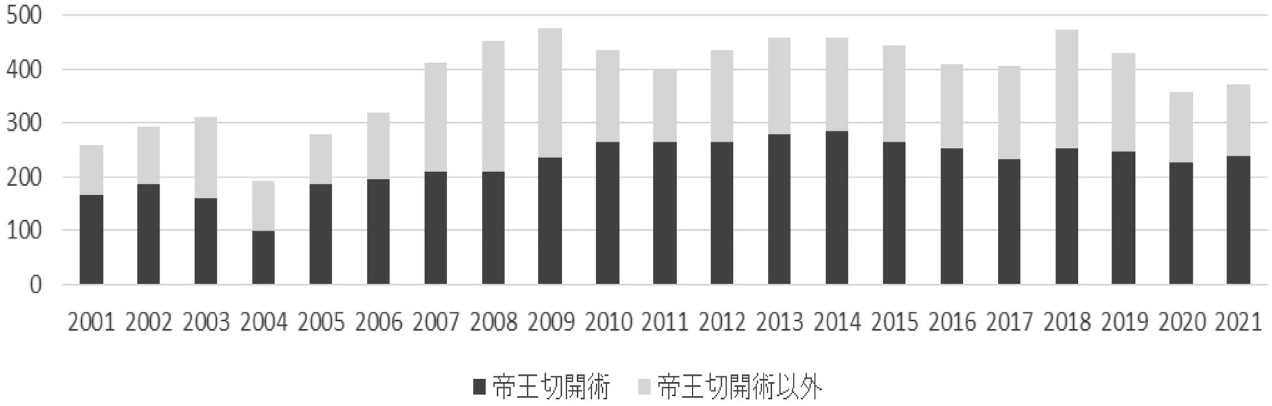


手術統計

◆全手術件数　　373 件　　　※手術 1 件につき術式 1 つとして集計

手術件数年次推移

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
帝王切開術	265	266	278	286	264	254	232	252	248	227	239
帝王切開術以外	136	171	182	174	181	155	175	221	181	132	134
計	401	437	460	460	445	409	407	473	429	359	373



◆内訳

産科手術 270 件

	件数	手術術式	件数	詳細	件数
帝王切開	239	腹式深部横帝王切開術	235	帝王切開のみ	191
				+ 卵管結紮	32
				+TAH	5
				+myomectom y	4
				+cystectomy	2
				+ 膀胱修復	1
		帝王切開（逆 T 字切開）	4	帝王切開のみ	2
				+ 卵管結紮	1
				+ 膀胱修復	1
その他	27	子宮内容除去術（流産）	9		
		子宮内容除去術（胞状奇胎）	3		
		人工妊娠中絶手術	1		
		子宮外妊娠手術	7	腹式手術	1
				腹腔鏡下手術	6
		頸管縫縮術	2	シロッカー 0 回、マクドナルド 2 回	
		開腹止血術	3		
		不妊手術	1		
		頸管裂傷縫合術	1		
血管塞栓術	4	弛緩出血	2		
		胎盤遺残	1		
		仮性動脈瘤	1		

婦人科手術 103 件

	件数	手術術式	件数	詳細	件数
腹式手術	57	単純子宮全摘術	31	TAH のみ	0
				+ 卵管切除	21
				+ 付属器切除（両側） （内 1 件　大網生検）	7
				+ 付属器切除（片側） （内 1 件　対側卵巣腫瘍切除、内 1 件　対側卵管切除）	3
		付属器切除術	11	片側 （内 1 件　対側卵巣腫瘍切除、内 1 件　大網生検）	7
				両側 （内 1 件　頸管ポリープ切除）	4
		cystectomy	4		
		myomectomy	10		

		試験開腹術	1		
腟式手術	24	円錐切除術	13		
		内膜掻把術 (内2件　遺残胎盤)	8		
		子宮筋腫捻除術	2		
		処女膜切開術	1		
腹腔鏡手術	14	腹腔鏡下子宮全摘術	1	(内1件　＋両側付属器摘出術)	
		腹腔鏡下卵巣腫瘍切除術	3	チョコレート嚢胞 (体内法0、体外法0)	0
				チョコレート嚢胞以外 (体内法3、体外法0)	3
		腹腔鏡下付属器切除術	10		
子宮鏡下手術	7	子宮鏡下子宮内膜ポリープ切除術	6		
		子宮鏡下子宮筋腫摘出術	1		
血管塞栓術	1	子宮筋腫	1		

婦人科救急統計

1．婦人科救急対応件数

婦人科救急対応件数　45件

救急搬送あり　25件

救急搬送なし　20件

紹介あり　17件

紹介なし　28件

2．受診理由

流産、切迫流産	9件
卵巣腫瘍（内4件捻転、内3件破裂）	7件
卵巣出血	5件
異所性妊娠	3件
性器出血（妊娠以外）	3件
外傷	3件
PID	2件
子宮留膿症	2件
月経困難症	2件
DVT（妊娠中）	1件
胎盤遺残	1件
モリミナ	1件
排卵痛	1件
婦人科異常なし	5件

３．紹介元

救急搬送あり

水戸協同病院	2件
水戸医療センター	2件
水戸中央病院	1件
水戸赤十字病院	1件
ひたちなか総合病院	1件
茨城県西部メディカルセンター	1件
常陸大宮済生会病院	1件
原レディスクリニック	1件
ひろこレディースクリニック	1件

救急搬送なし

常陸大宮済生会病院	2件
水戸医療センター	1件
笠間市立病院	1件
大久保病院	1件
水戸吉沢小児科クリニック	1件

■業　績

【原著論文】

1 . Retrospective details of false-positive and false-negative results in non-invasive prenatal testing for fetal trisomies 21, 18 and 13

Suzumori N, Sekizawa A, Takeda E, Samura O, Sasaki A, Akaishi R, Wada S, Hamanoue H, Hirahara F, Sawai H, Nakamura H, Yamada T, Miura K, Masuzaki H, Nakayama S, Kamei Y, Namba A, Murotsuki J, Yamaguchi M, Tairaku S, Maeda K, Kaji T, Okamoto Y, Endo M, Ogawa M, Kasai Y, Ichizuka K, Yamada N, Ida A, Miharu N, Kawaguchi S, Hasuo Y, Okazaki T, Ichikawa M, Izumi S, Kuno N, Yotsumoto J, Nishiyama M, Shirato N, Hirose T, Sago H.

Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 256:75-81, 2021

2 . 反復帝王切開術時にアナフィラキシーを発症したラテックスアレルギーの３例

澤幡 望 , 遠藤 瑠璃子 , 神崎 美玲 , 藤木 豊 , 安積 瑞博

皮膚科の臨床 63（10）:1517-1521,2021

3 . 妊娠中の意識障害を契機に診断された下垂体卒中の一例

平澤　亮子 , 山田　直樹 , 島　みなみ , 施　恵子 , 佐々木　怜子 , 加藤　敬 , 人見　義郎 , 中村　佳子 , 藤木　豊

関東連合産科婦人科学会雑誌 58(4):501-506, 2021

4．出生後に診断された気管無形成の一例

島　みなみ，藤木　豊，東　福祥，施　恵子，佐々木　怜子，加藤　敬，人見　義郎，中村　佳子，山田　直樹

関東連合産科婦人科学会雑誌 58⑷:577-581, 2021

【学会・研究会発表】

1．分娩中に意識消失で発症した可逆性白質脳症（PRES）および可逆性脳血管攣縮症候群（RCVS）の1例

伊東菜摘、飯場萌絵、平澤亮子、宮代夢子、施 恵子、佐々木怜子、人見義郎、中村佳子、山田直樹、藤木 豊

第141回　関東連合産科婦人科学会　総会・学術集会 2021年6月19-20日　東京（WEB開催）

2．（シンポジウム）新型コロナウイルス感染下の周産期医療体制の構築―周産期医療崩壊を来さないための知恵

藤木　豊

第141回　関東連合産科婦人科学会　総会・学術集会 2021年6月19-20日　東京

3．胎児期に一過性に腹水を認め、出生後新生児脳梗塞を来した一例

佐々木怜子、藤木　豊　平澤亮子、宮代夢子、人見義郎、中村佳子、山田直樹

第57回　日本周産期・新生児医学会学術集会　2021年7月11-13日　宮崎（ハイブリッド開催）

4．妊娠11週に脳出血を発症したもやもや病の1例

伊東菜摘、人見義郎、平澤亮子、関ももこ、宮本和恵、鈴木あすか、飯場萌絵、佐々木怜子、中村佳子、山田直樹、藤木　豊

第190回　茨城産科婦人科学会　2021年10月30日　水戸（ハイブリッド開催）

5．帝王切開後肺血栓塞栓症（PTE）を起こし、抗凝固療法中に巨大筋膜下血腫を発症した1例

平澤亮子、中村佳子、宮代夢子、柳川惠子、飯場萌絵、佐々木怜子、人見義郎、山田直樹、藤木豊

第142回 関東連合産科婦人科学会　総会･学術集会　2021年11月20-21日　横浜(ハイブリッド開催)

ＭＦＩＣＵ利用状況・センター事業

１．MFICU（母体胎児集中治療室）利用状況

年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
入院／転入	21	11	14	15	19	19	12	18	25	16	21	13	216	18
退院／転出	21	12	13	15	19	19	12	18	25	16	21	13	216	18
延利用状況	176	177	180	186	186	177	185	180	173	184	154	186	2144	178.7
利用実人数	25	17	19	21	25	25	28	23	30	21	25	15	274	22.8
母体搬送数	9	2	2	4	6	5	7	4	3	4	8	2	56	4.7
平均入院期間	5.2	5.4	11.5	13.5	11.6	10.3	8.8	8.8	8.0	9.1	8.2	10.4	110.8	9.2
病床利用率	98	95	100	100	100	98	99	100	93	99	92	100	1174	97.8

緊急母体搬送者113名中56名が（49.6%）がMFICUを利用している

合併症（心疾患、糖尿病、高血圧など）、HDP（妊娠高血圧症候群）、多胎妊娠、前置胎盤、切迫流早産、胎児発育異常や胎児異常のハイリスク妊婦が利用した

２．母親学級利用状況

新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、2020年2月～中止

オンライン両親学級を2021年6月～開始

産科外来で助産師が個別指導を行っている

３．院内助産システム

1) 母乳外来

(1) 受診状況

内訳＼月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初診（5000）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
再診（3500）	6	4	6	9	8	8	5	11	5	7	5	3	77
相談（1000）	34	32	40	39	37	41	38	34	43	28	20	47	433
保険適応	0	2	3	6	3	1	1	1	0	1	0	1	19
計	41	38	49	54	48	50	44	46	48	36	25	51	530

月～金曜日（14時～17時）予約制　産婦人科外来で乳房管理・母乳相談・育児指導

助産師が担当

受診理由は、体重増加不良、母乳不足感、直接母乳困難、乳腺炎などが多い

他院で出産した母子の受診、卒乳相談がある

相談は、2週間健診として新生児の発育と黄疸チェック・乳房チェック・育児相談を含めている

（2）母乳外来年次推移

内訳＼年	令和３年	令和２年	令和元年	平成 30 年	平成 29 年	平成 28 年
初診	1	2	2	3	7	3
再診	77	60	69	60	77	27
相談	433	249	389	418	329	370
保険	19	22	48	6	27	19
計	530	333	508	487	440	419

2）妊婦指導

内訳＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
指導件数	58	79	84	72	78	72	78	86	70	70	116	91	970
実施日数	21	18	21	20	21	20	21	20	19	19	18	22	241

3）ベビーマッサージ

平成 22 年 5 月 13 日より、地域の育児支援として開始した

木曜日開催　13 時～ 15 時　1 組 1000 円

国際ボンディング協会インストラクターが行っている

※令和 3 年度は、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため中止

4）助産師外来　受診状況

内訳＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
妊婦	2	4	2	1	3	1	0	0	0	2	0	2	17

平成 22 年 11 月より開始

毎週月～金（13 時～ 14 時）予約制

➢救命救急センター

◆ 救　急　科

1　担当スタッフ

救命救急センター長　　村岡　麻樹

主任部長　遠藤　浩志

部長　長田　雄大

部長　福井　大治郎

部長　玉造　吉樹

部長　辻　剛史

医員　髙瀬　士龍

顧問　須田　高之

2　診療の概況

当院は県央･県北地区の救急救命センターとして三次救急患者を受け入れるだけでなく、水戸市ドクターカーと茨城県ドクターヘリによる病院前救急医療にも力をいれている。また、DMAT研修も積極的に行いいざというときの災害医療に備えている。

地域のメディカルコントロール事業にも積極的に参加し、当院ばかりでなく地域全体の救急医療の充実を目指している。

症例数等の大凡は別掲・別表のとおりである。

コロナ治療に関しては、重症患者を中心に関わっており、人工呼吸器管理・ECMO管理を行った。

3　今後の展望

これまでの経験をいかし、救急医療に対する地域の期待とニーズに応えられるよう、院内の連携をより一層深め、努力していきたい。また、地域医療に更なる貢献ができるよう、消防との連携を強化していきたい。

■臨床統計

1　救急外来患者数

（　）内は入院患者数

科／月	内科	小児科	外科	整形	形成	脳外	心外	産婦	眼科	耳鼻	皮膚	泌尿	麻酔	口外	放射線	救急	合計
4	203	8	17	41	27	21	12	46	6	5	4	13	1	3		181	588
	(81)		(6)	(9)	(2)	(10)	(7)	(36)	(3)			(4)				(73)	(231)
5	255	10	21	64	37	32	12	40	8		13	18		4	3	203	720
	(76)	(1)	(9)	(13)	(2)	(11)	(7)	(27)				(3)		(1)		(78)	(228)
6	157	7	16	37	40	19	6	45	6	5	18	20		2		237	615
	(50)		(9)	(9)	(3)	(7)	(2)	(33)				(4)				(103)	(220)
7	183	12	16	53	39	26	7	53	5	11	33	18		2		217	675
	(60)		(8)	(14)	(3)	(14)	(5)	(37)		(1)		(4)				(86)	(232)
8	218	9	22	32	32	23	12	42	8	6	33	25		6		209	677
	(71)		(13)	(5)	(3)	(7)	(8)	(24)	(3)		(1)	(6)				(77)	(218)
9	216	4	26	50	37	20	10	44	8	6	25	20				207	673
	(76)		(11)	(17)	(1)	(8)	(9)	(33)				(5)				(73)	(233)
10	179	3	22	66	33	23	6	37	6	5	13	18	1	4		222	638
	(53)		(16)	(19)	(4)	(6)	(3)	(25)	(1)			(5)				(80)	(212)
11	163	6	15	49	48	35	6	42	12	3	11	12		6		230	638
	(80)		(6)	(12)	(5)	(9)	(6)	(33)	(4)			(3)		(1)		(103)	(262)
12	196	11	22	57	44	34	17	61	12	8	12	27	2	1		235	739
	(67)		(12)	(17)	(2)	(6)	(5)	(41)	(1)			(6)				(97)	(254)
1	222	6	24	74	25	32	9	45	11	4	9	23		4		295	783
	(73)		(19)	(23)	(1)	(11)	(5)	(32)	(4)		(1)	(5)				(107)	(281)
2	182	5	15	49	38	27	6	48	5	1	5	16		3		223	623
	(50)		(10)	(19)	(1)	(13)	(4)	(31)				(5)				(92)	(225)
3	206	8	12	57	36	22	6	41	10		9	20		2		212	641
	(69)		(10)	(15)	(1)	(12)	(4)	(34)	(3)			(2)				(96)	(246)
合計	2380	89	228	629	436	314	109	544	97	54	185	230	4	37	3	2671	8010
	(806)	(1)	(129)	(172)	(28)	(114)	(65)	(386)	(19)	(1)	(2)	(52)	(0)	(2)	(0)	(1065)	(2842)

2　科別月別救急車搬入患者数

（　）内は入院患者数

科／月	内科	小児科	外科	整形	形成	脳外	心外	産婦	眼科	耳鼻	皮膚	泌尿	麻酔	口外	放射線	救急	合計
4	46		5	7		6	5	10				1		1		140	221
	(41)		(3)	(7)		(5)	(5)	(10)				(1)				(62)	(134)
5	42		9	7	1	11	3	8	1			5				166	253
	(35)		(8)	(7)		(8)	(3)	(7)				(3)				(70)	(141)
6	32		7	5		7	2	9				3				197	262
	(28)		(7)	(5)		(6)	(1)	(8)				(2)				(90)	(147)
7	29		5	7	1	10	3	10		1		2				183	251
	(28)		(4)	(7)	(1)	(9)	(3)	(10)				(1)				(82)	(145)
8	39		6	3	3	6	7	10		1	1	4				178	258
	(37)		(6)	(3)	(3)	(5)	(7)	(10)				(4)				(73)	(148)
9	35		7	12	1	8	6	10		2		3				177	261
	(32)		(6)	(11)	(1)	(8)	(6)	(9)				(2)				(71)	(146)
10	32		7	10	1	7	4	9				2				191	263
	(27)		(7)	(10)	(1)	(4)	(2)	(9)				(2)				(79)	(141)
11	40		2	10	3	7	4	9	1			2				198	276
	(34)		(2)	(10)	(2)	(4)	(4)	(9)								(101)	(166)
12	41	1	3	10	1	8	5	8			1	2				202	282
	(32)		(3)	(10)	(1)	(6)	(3)	(7)				(1)				(96)	(159)
1	50		6	12		9	4	13						1		245	340
	(45)		(6)	(11)		(8)	(4)	(12)								(106)	(192)
2	30			10		11	1	14				1				184	251
	(24)			(8)		(10)	(1)	(14)				(1)				(90)	(148)
3	38		3	7		8	2	12				2				184	256
	(35)		(2)	(5)		(7)	(2)	(12)								(87)	(150)
合計	454	1	60	100	11	98	46	122	2	4	2	27	0	2	0	2245	3174
	(398)	(0)	(54)	(94)	(9)	(80)	(41)	(117)	(0)	(0)	(0)	(17)	(0)	(0)	(0)	(1007)	(1817)

３　ＥＲ患者取り扱い数

区分＼月	R3年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	合計
総数	599	720	615	688	677	672	638	665	739	784	623	641	8061
時間内	133	102	130	118	132	131	120	140	129	164	119	113	1531
時間外	466	618	485	570	545	541	518	525	610	620	504	528	6530

４　救急外来受診者に占める入院患者数

科別＼月	R3年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	合計
総数	235	227	220	238	218	237	216	276	254	276	225	246	2868
一般病棟	197	203	188	209	189	202	170	230	214	229	193	211	2435
救命センター	38	24	32	29	29	35	46	46	40	47	32	35	433

５　救急搬送患者総数（救急車・ドクターカー・ドクターヘリ）と診療科内訳

科別＼月	R3年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	合計
循環器内科	40	26	28	37	27	23	33	38	42	44	23	38	399
消化器内科	27	38	29	25	28	42	26	30	25	37	40	25	372
呼吸器内科	6	12	12	8	2	9	6	9	8	11	7	10	100
腎臓内科	6	9	2	4	5	4	3	8	10	5	2	7	65
その他内科	37	41	53	55	60	42	45	37	48	76	70	47	611
外科	7	9	9	6	10	11	9	6	7	8	2	3	87
心臓外科	9	2	9	7	13	9	8	11	7	8	2	6	91
整形外科	36	51	46	33	29	47	54	58	52	44	33	44	527
脳外科	35	35	46	37	35	34	41	55	38	44	40	44	484
泌尿器科	5	10	7	8	9	3	2	4	10	11	2	7	78
麻酔科	6	3	8	9	3	4	6	3	3	7	8	6	66
産科	13	11	12	12	11	10	10	11	8	18	15	14	145
小児科	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	5
形成外科	4	7	11	7	9	9	11	14	14	17	6	6	115
皮膚科	0	2	4	3	6	2	0	3	2	0	0	3	25
眼科	3	2	0	2	0	2	0	1	0	0	0	2	12
耳鼻科	3	5	5	4	8	11	4	6	3	10	0	4	63
口腔外科	2	1	2	1	1	0	0	1	1	0	0	0	9
計	239	265	283	258	257	262	258	296	279	341	250	266	3254

６　救急車総数

区分＼月	R3年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	合計
総数	232	264	277	255	247	256	253	289	272	334	249	263	3191
時間内	87	71	97	78	83	88	75	99	81	106	82	82	1029
時間外	145	193	180	177	164	168	178	190	191	228	167	181	2162

７　ＣＰＡ件数

区分＼月	R3年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	合計
総数	14	9	19	17	14	22	16	20	20	33	33	23	240
時間内	5	5	9	9	9	9	4	7	11	13	9	13	103
時間外	9	4	10	8	5	13	12	13	9	20	24	10	137
生存者	1	1	1	0	0	1	0	2	2	2	1	3	14

8　水戸市ドクターカー出動状況

区分＼月	R3年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	合計
総数	31	36	46	42	43	36	50	45	66	64	40	48	547
当院搬送	8	11	14	14	16	13	11	12	17	20	10	8	154
他院搬送	2	2	1	3	3	2	3	2	6	5	3	2	34
現場処置	20	20	30	23	19	17	33	31	40	36	27	38	334
キャンセル	1	3	2	2	5	4	3	0	3	3	0	0	26

9　ドクターヘリ出動状況

区分＼月	R3年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	合計
総数	22	10	25	22	28	25	32	27	32	24	32	24	303
当院搬送	6	1	6	4	7	5	5	5	4	5	2	3	53
他院搬送	11	2	9	10	11	11	11	7	12	5	11	9	109
キャンセル	5	5	8	7	10	9	16	12	15	14	17	11	129
施設間搬送	0	2	2	1	0	0	0	3	1	0	2	1	12

10　年間重篤患者数（令和３年４月～令和４年３月）

番号	疾病名	基準	患者（人）	死亡（人）
1	病院外心停止	病院前心拍再開例、外来での死亡確認例を含む	234	201
2	重症急性冠症候群	切迫心筋梗塞、急性心筋梗塞又は緊急冠動脈カテーテル施行例	107	11
3	重症大動脈疾患	急性大動脈解離又は大動脈瘤破裂	41	10
4	重症脳血管障害	来院時 JCS 100 以上、開頭術、血管内手術施行例又は tPA 療法施行例	57	20
5	重症外傷	Max AIS が３以上又は緊急手術施行例	69	6
6	重症熱傷	Artz の基準による	7	0
7	重症急性中毒	来院時 JCS 100 以上又は血液浄化法施行例	18	0
8	重症消化管出血	緊急内視鏡施行例	52	3
9	重症敗血症	感染性 SIRS で臓器不全、組織低灌流又は低血圧を呈する例	13	1
10	重症体温異常	熱中症又は偶発性低体温症で臓器不全を呈する例	16	5
11	特殊感染症	ガス壊疽、壊死性筋膜炎、破傷風等	1	0
12	重症呼吸不全	人工呼吸器管理症例（１から 11 までを除く。）	21	1
13	重症急性心不全	人工呼吸器管理症例又は Swan-Ganz カテーテル、PCPS 若しくは IABP 使用症例（１から 11 までを除く。）	38	1
14	重症出血性ショック	24 時間以内に 10 単位以上の輸血必要例（１から 11 までを除く。）	5	1
15	重症意識障害	JCS 100 以上が 24 時間以上持続（１から 11 までを除く。）	0	0
16	重篤な肝不全	血漿交換又は血液浄化療法施行例（１から 11 までを除く。）	11	2
17	重篤な急性腎不全	血液浄化療法施行例（１から 11 までを除く。）	4	0
18	その他の重症病態	重症膵炎、内分泌クリーゼ、溶血性尿毒症性症候群などで持続動注療法、血漿交換又は手術療法を実施した症例（１から 17 までを除く。）	38	1
合計			694	262

11　ＩＣＵ利用状況

区分＼月	R3年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	合計平均
総利用者数	287	278	272	252	238	219	381	335	339	304	243	253	283.4
在院患者延数	193	158	195	175	162	157	177	194	208	216	186	178	183.2
病床利用率（当月）	64.3%	51.0%	65.0%	56.5%	52.3%	52.3%	57.1%	64.7%	66.8%	69.7%	66.4%	72.5%	61.5%
病床稼働率	66.7%	53.2%	68.0%	60.0%	54.2%	55.7%	61.0%	69.3%	70.0%	71.6%	69.3%	83.9%	65.2%
平均在院日数	8.4	9.9	9.1	9.1	9.1	8.0	8.0	7.2	7.0	8.0	9.0	5.0	8.1

※総利用者数は、ICUを利用した総患者数

12　ＩＣＵ診療科内訳

科＼月	R3年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月	2月	3月	合計
救急	38	23	21	15	18	16	23	24	28	25	25	18	274
心臓血管科	0	1	3	1	0	1	0	1	1	2	2	11	23
総合内科	6	17	0	2	1	1	0	3	2	0	0	0	32
腎臓内科	3	2	0	2	0	1	2	2	0	1	1	2	16
消化器内科	2	16	7	2	2	4	7	6	7	2	2	2	59
循環器内科	44	38	18	10	20	17	10	22	17	21	21	14	252
脳神経外科	2	3	0	0	0	0	1	0	1	0	5	4	16
整形外科	2	2	3	1	1	5	3	3	1	1	1	2	25
外科	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
産婦人科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3
皮膚科	0	0	1	0	2	1	1	0	0	0	0	0	5
計	97	106	53	33	44	46	38	62	57	52	58	54	709

■業　績

【学会・研究会発表】

1. 福井大治郎，村岡麻樹，遠藤浩志，長田雄大，玉造吉樹，稲葉健介，辻 剛史，須田高之：茨城県ドクターヘリ運航記録分析と通信指令員の意識調査からみた覚知要請における課題と展望　第28回日本航空医療学会総会（熊本県）2021年11月19日・20日
2. 長田雄大，村岡麻樹，遠藤浩志，辻 剛史，髙瀬士龍：偶発性低体温症による心肺停止患者に対するVAECMO導入に関して　第45回茨城県救急医学会（Web開催）2021年9月11日
3. 辻 剛史，村岡麻樹，遠藤浩志，長田雄大，髙瀬士龍：COVID-19との鑑別に苦慮した胸部外傷の症例　第45回茨城県救急医学会（Web開催）2021年9月11日
4. 村岡麻樹，遠藤浩志，長田雄大，辻 剛史，髙瀬士龍：コロナ下でのドクターヘリ、ドクターカーの運用について　第45回茨城県救急医学会（Web開催）2021年9月11日
5. 豊田貴裕，大津裕子，山田知弥，大友礼子，江幡由香，村岡麻樹：ドクターヘリ出動時の家族対応の実際と課題　第45回茨城県救急医学会（Web開催）2021年9月11日

【講義　救急救命士への講義・実習指導】

MCLS標準コース

MCLSマネジメントコース

消防学校講義

【水戸地区救急医療Medical Control（MC）協議会】

年数回	全体会開催	村岡麻樹　専門委員会副委員長
	事後検証部会	長田雄大・玉造吉樹
	教育研修部会	遠藤浩志・福井大治郎

【茨城県内の消防本部との連携・全25消防本部訪問（通年）】

1. 茨城消防救急無線・指令センター視察
2. ドクターヘリ事案事後検証・出動指導
   各消防本部からの要請に応じて（通年開催）
3. 茨城県ドクターヘリ・防災ヘリ会議開催（通年開催）
   両基地病院・茨城県庁医療対策課・朝日航洋
4. ブルードラゴン・プレホスカンファレンス
   救急科医師・各消防本部（通年開催）

【Off the job training 各種セミナー・コース開催・受講（通年／県内外で随時開催）・指導】

DMAT国内災害医療援助チーム養成研修

統括DMAT研修

DMAT技能維持研修

多重事故エマルゴトレーニング

MCに関わる医師研修

集団災害セミナー

一次救命処置BLSコース

二次救命処置 ACLS コース
MCLS-CBRNE コース
MCLS-CBRNE インストラクターコース
病院前外傷処置教育訓練 ITLS access コース・advanced コース
ITLS アクセスコース
小児 ITLS コース
JPTEC インストラクターコース
病院前外傷救護 JPTEC コース
集団災害医療（多数傷病者対応）MCLS 標準コース・マネジメントコース・イントラコース
熱傷治療 ABLS コース
日本熱傷学会主催 PBEC コース
県央・県北地区救急治療セミナー
茨城県県央県北レジデントセミナー
医学生セミナー（水戸協同病院と合同）
茨城 PUSH プロジェクト　院内 PUSH コース（定期）・院外 PUSH コース（随時）

【その他・防災訓練など】

茨城県 Doctor heli 出動シミュレーション・訓練参加（随時）
Doctor heli 運行調整員会

NBCR 研修会
百里 SCU 展開訓練
茨城県ＤＭＡＴミーティング
茨城県総合防災訓練
政府合同防災訓練
百里空港航空機事故実地訓練
ＤＭＡＴブロック訓練会議
災害拠医療従事者研修
市町村高速道路上救護訓練
ＣＢＲＮＥ担当者養成講習

ドクターヘリカンファレンス（院内）
ドクターカーカンファレンス（院内）
ICU カンファレンス（院内）
ＤＭＡＴカンファ（院内）

救急救命士研修（随時）
気管挿管実習・救急救命士研修所臨床実習など

診療部各科

血管内治療グループ

1　担当スタッフ

千葉　義郎　　樋口　基明　　海老原　至　　東　和明　　黒澤　洋　　椎名　映里
川原　有貴　　藤沼　俊介　　井上　正則（非常勤）　遠田　譲（非常勤）　郡司　真誠（非常勤）

2　はじめに

平成20年9月に発足した当グループは診療科横断的な診療グループとして、脳神経外科領域を除く全診療科の疾患を対象に、当該科の専門医と協議しながら患者様に最適な治療を提案することを掲げて活動しております。昨年度は症例総数が1134件で1000件を超えることが出来ました。これは、一重に皆様方のお力添えによるもので、この場をお借りして御礼申し上げます。今後も緊急を含めて各種の血管内治療に対応し、先生方の診療そして地域医療に貢献できるよう取り組んでいく所存です。

3　診療の状況

透析シャントへバルーン拡張術は昨年度の486件と一昨年度は比較して若干の低下を認めておりましたが、シャント関連の鎖骨下静脈狭窄に対してのカテーテル治療が83件と一昨年度の5件と比較して大幅に増加しており、透析シャント関連の治療として過去最高の件数を実施しております。シャント側の鎖骨下静脈の閉塞は、透析困難のみならずシャント側の腫脹や時に皮膚潰瘍を作るなど患者様のQOL低下に繋がる可能性があり、今後とも積極的に治療に取り組んでまいります。

末梢動脈疾患（PAD）は、前年と同様の件数で推移しております。下肢切断のリスクが高い重症虚血肢（CLI）症例は依然として多く、また、血管内治療のみでは困難な場合もあり、心臓血管外科や形成外科を中心とした関連診療科との連携を密にして対応していく次第です。

昨年度はPICC（末梢留置型中心静脈カテーテル）を看護師特定行為研修の一環として、看護師特定行為研修責任者の青柳智和氏に指導の下に実施し、令和2年の140例からさらに増えて245例施行しております。もともとは院内での長期留置カテーテルの必要な患者様や末梢の静脈ライン確保困難な患者様に行っておりましたが、最近では在宅診療に戻られる患者様にPICCを挿入することで、在宅診療の場でお役に立てられるように取り組んでおります。

また、昨年同様にグループの非常勤医師である慶応大学放射線科の井上医師と協力して、様々な種類の動静脈奇形やリンパ漏に対しての血管内治療に取り組んでおり、水戸地区においても高いレベルの診療が行える体制を今後も維持して参ります。

以上、当グループの活動についてご報告いたしました。これからも病診連携、病病連携を推進し、地域医療に少しでも貢献できるように邁進する所存です。

■臨床指標・統計

年　　　度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度
症　例　総　数	489 件	492 件	660 件	821 件	783 件	972 件	1134 件

内訳							
透析シャント関連							
シャントのバルーン拡張術	112	144	286	411	390	500	486
鎖骨下静脈狭窄例	9	5	12	2	1	5	83
長期留置カテーテル（テシオカテーテル）留置	5	9	20	20	18	35	28
腫瘍関連の動脈塞栓術							
肝細胞癌への動脈塞栓術	43	60	48	25	14	11	8
子宮筋腫に対する UAE（子宮動脈塞栓術）	9	0	5	6	1	6	0
その他（動注療法を含む）	3	3	2	0	0	0	3
末梢動脈疾患のカテーテル治療							
下肢	126	123	119	153	167	138	132
その他（腎動脈、鎖骨下）	3	4	5	7	6	1	1
血栓除去						6	10
大動脈ステントグラフト内挿術							
腹部	51	38	23	40	40	31	39
胸部	25	29	18	22	16	24	10
エンドリークの塞栓術		10	13	26	20	9	4
内臓動脈瘤							
総数	9	11	22	25	32	4	7
出血に対する動脈塞栓術							
外傷	12	11	6	13	10	7	10
消化管出血	7	6	8	1	2	9	8
周産期関連の出血	2	1	2	4	2	2	8
その他	10	11	19	15	20	17	19
VTE（静脈血栓塞栓症）関連							
下大静脈フィルター							
留　置	10	3	6	7	2	2	0
回　収	5	1	4	5	1	3	0
深部静脈血栓症のカテーテル治療	5	2	14	15	7	2	1
肺血栓塞栓症のカテーテル治療	0	0	0	0	1	1	0
その他							
上大静脈ステント	4	0	0	0	0	0	1
胃静脈瘤への BRTO	1	2	0	3	4	4	5
中心静脈ポート造設	12	2	8	10	12	11	23
内分泌疾患サンプリング	5	0	2	3	2	2	1
気管ステント	0	0	0	0	0	0	0
異物回収	1	0	1	1	0	1	1
バイオプシー（CT 下、その他）	2	2	0	0	0	0	0
心嚢ドレナージ						1	0
PICC						140	245
動静脈瘻							

◆ 血液内科

1　担当スタッフ

嘱託医　　長山　礼三

2　診療の概況

COVID-19 流行は、高齢者が多い血液内科診療にも様々な影響を及ぼした。ワクチン接種に伴う種々の問題。リンパ腫等の造血器腫瘍においては、化学療法によって引き起こされる免疫不全の問題。家族面会の制限による終末期医療の様々な問題。また、他施設との連携では、クラスター発生により、スムーズな患者紹介が困難となり、他診療科に多々ご迷惑をおかけした。今年度も総合診療内科と連携し、研修医には症例カンファに参加していただいた。入院症例数等の大凡は別掲・別表のとおりである。

3　今後の展望

来年度から、筑波大学血液内科千葉滋教授が、外来診療に加わっていただけることになった。診療の質向上が期待される。今後も、他施設との連携を密にしていきたい。また各診療科からのコンサルトには適切に対応したい。

（文責　長山）

■臨床指標・統計

【入院患者数症例数】

症　　例	患者数	症　　例	患者数
骨髄異形成症候群	1	原発性マクログロブリン血症	2
慢性骨髄性白血病	1	赤芽球癆	2
本態性血小板血症	2	多血症	1
骨髄繊維症	2	特発性血小板減少性紫斑病	6
リンパ腫	15	再生不良性貧血	5
		総数	36

【治療成績】

年間死亡症例　7例

総合内科・感染症科

1　担当スタッフ

千葉　義郎（総合内科専門医）
松永　直久（非常勤、帝京大学医学部感染制御部）
山中　克郎（非常勤　福島県立医大会津医療センター総合内科）
徳田　安春（非常勤　沖縄群星臨床研修センター）
井上　純人（非常勤　山形大学第一内科呼吸器内科）

2　活動内容

当科は平成28年4月に発足し、6年目となる院内診療科で、主に肺炎や心不全、そして糖尿病患者を多く担当しています。また内科専門医制度や研修医教育への対応を強化する目的で立ち上げた経緯もあり、外来は行わない院内診療科として活動しています。

現在は日本内科学会の総合内科専門医資格をもつスタッフと初期研修医とで、ホスピタリスト（病院総合診療医）という立ち位置で診療と研修医の教育に当たっています。研修医は主治医として積極的に診療に関わるため、病棟でのマネジメントには自信を持てるようになっています。

今まで外部講師を招聘して対面での指導を企画していましたが、COVID19の流行を契機にZoomが一気に普及したこともあり、呼吸器内科のレクチャーを新たに企画するなど、むしろ教育の機会を増やしました。

また、感染症領域については常勤の感染症専門医はいないものの、以前から感染症専門医による定期的なレクチャーやコンサルト体制を整備しているだけでなく、感染症認定看護師や感染制御専門薬剤師を有するレベルの高い感染対策チーム（ICT）が非常にうまく機能してきました。このリソースを十分に生かして診療の質を保ち、同時に研修医に感染症の基本を習得してもらうという目標を掲げて活動しています。COVID19診療においてもERや発熱外来での診療や診療補助に加え、コロナ病棟での対応やワクチン接種など研修医らの力を借りながら遂行することができました。

引き続き、内科専門医制度や初期研修医への教育を意識しながら診療にあたる所存です。

3　令和3年度実績

症　例	患者数	症　例	患者数
呼吸器疾患	21	血液疾患	0
循環器疾患	10	脳・神経疾患	3
消化器疾患	4	感染症（再掲）	5
腎・泌尿器疾患	6	その他	9
代謝・内分泌疾患	6		
		総計	64

緩和ケア内科

1　担当スタッフ

主任部長　高久　秀哉
顧問　　　吉村　孝夫

2　診療の概況

今年度の入院患者数は143名で、昨年度と同じであった。病床利用率は63.1％で、昨年度59.7％より増加した。平均入院日数も24.2日間と昨年度の23.4日とほぼ同じであった。病床利用率63.1%（昨年59.7%）と悪いため、この改善を第一の目標としたい。

3　今後の展望

病床利用率を上げ、外来診療・緩和ケアチーム活動と併せて、いつでも、どこでも、良質な緩和ケアを平等に提供できるようにしていきたい。

（文責　吉村　孝夫）

■臨床統計

稼働病床数	16床
入院患者数	143名
退院患者数	143名
死亡退院	118名
生存退院	25名
内訳　自宅退院	21名
施設退院	2名
転院	2名
一日平均在院患者数	10.1名
平均病床利用率	63.1％
平均入院日数	24.2日

■業　績

【座長等】

1．高久　秀哉：第48回茨城県東洋医学研究会学術講演会
（水戸市　座長）2021年9月11日
2．高久　秀哉：痛みのトータルマネージメントwebセミナー
（web開催　座長）2021年10月15日
3．高久　秀哉：日本サイコオンコロジー学会コミュニケーション技術研修会
（web開催　ファシリテーター）2021年11月28日、12月12日

【講演】

1．高久　秀哉：水戸市地域緩和ケアセミナー
がん患者に対する悪い知らせの伝え方
―コミュニケーション技術について―
（水戸市　座長）2021年11月30日

小 児 科

1　担当スタッフ

主任部長　貴達　俊徳

顧問　内谷　哲

初期研修医　（1 名～ 2 名）

2　診療の概念と今後の展望

2 人体制で小児科入院ならびに外来診療にあたった。Covid-19 の侵淫後、受診患者の減少はまだ続いているものの、少しずつ戻ってきているところである。入院患児数も昨年度、激減したところから回復をみせている。

元々の小児科病棟は Covid-19 患者の入院体制のための病棟となり、小児科の入院は外科との混合病棟が続いているが、スタッフのやる気、努力により小児の受け入れ態勢の存続ができている。

水戸市に 3 ヶ所しかない小児科入院可能医療機関の一つが当科である。水戸市休日夜間診療の二次病院当番も長年変わらず 1/3 を負担している。また研修必須科目の小児科研修にこども病院と密に連携して相応の時間を割いている。

食物アレルギーの食物経口負荷試験の充実に努め、2021 年度は 211 件の食物経口負荷試験を実施することができた。これは茨城県内 2 位の実施体制を構築することができたことになる。2022 年度は 600 件の食物経口負荷試験を目指し、さらなる体制の拡張を図っていきたい。

今後も水戸地区の小児科地域医療の継続、ならびに研修病院としての当院の発展に少しでも貢献していく所存である。

（文責　貴達）

■臨床指標・統計

【入院患者数症例数】2021年4月～2022年3月

症例	患者数	症例	患者数
＜呼吸器＞		＜神経＞	
急性細気管支炎	6	脳性対麻痺	4
RS ウイルス細気管支炎	2		
気管支喘息	1	＜感染症・その他＞	
		IgA 血管炎	1
＜消化器＞		頚部リンパ節炎	1
アデノウイルス腸炎	1	急性声門下喉頭円	1
カンピロバクター腸炎	1	咽頭炎	1
＜免疫・膠原病＞		＜循環器＞	
食物アレルギー（負荷試験含む）	211	川崎病	9
		不全型川崎病	2
＜腎・泌尿器＞			
尿路感染症	2		
		総計	243

■業　績

大成看護学校小児科学講義　貴達　俊徳

整 形 外 科

1　担当スタッフ

院長	生澤　義輔	（股関節、膝関節、関節リウマチ、スポーツ）
主任部長	野村　真船	（脊椎、骨粗しょう症）
部長	島田　勇人	（股関節、骨粗しょう症）
部長	細野　泰照	（膝関節、足外科）
部長	鈴木　真純	（脊椎、骨粗しょう症）
部長	星　徹	（股関節、外傷）
部長	渡邊　仁	（脊椎、外傷）
医員	山田　和矢	（外傷）
非常勤	秋山　義人	（上肢、外傷）
	塚越　祐太	（小児、スポーツ、脊椎、外傷）

2　診療の概況

院長の生澤を中心に、９人の整形外科医で診療にあたっています。9月に渡邊医師が退職し、10 月から山田医師が赴任してきました。

コロナウイルス感染が拡大したため、病院全体としては手術数の減少、患者減少が見られましたが、整形外科ではわずかな減少にとどまり、令和３年度の手術件数は約 1200 件でした。総合病院の役割として、手術が必要な重症患者を中心に診療を行っています。手術の内容としては、骨折などの外傷性疾患と脊椎疾患、下肢関節疾患が多いです。

当院は三次救急病院でありますが、二次救急の患者でも透析患者や心疾患を合併した患者は当院でなければ対応できませんので、お断りせず受け入れております。総合病院のメリットで各科の協力を得やすいので、合併症のある患者にも積極的に手術が可能です。大腿骨近位部骨折のほとんどは入院後１日以内に手術を行っています。小児の骨折も原則的に緊急手術を行い、患者、家族の負担軽減に努めています。

外来は原則として紹介状の持参をお願いしております。より専門性の高い治療を行うため、症状に応じなるべく各専門領域の担当医が診察するようにしています。状態の落ち着いている患者には、診療所に戻ることをお勧めしております。外来の待ち時間が長時間になりご迷惑をおかけすることが多いので、今後改善に努めたいと思います。

3　今後の展望

人工関節置換術ではコンピューターやナビゲーションシステムを使用して、より正確なインプラント設置を目指した手術を行っております。今後は背椎手術においてもナビゲーションを使用して、スクリュー挿入をより安全に行なって行く方針です。また背椎手術の侵襲を減らすため、内視鏡手術も開始する予定です。

■臨床指標・統計

2021年度　整形外科入院患者数（2021年4月1日～2022年3月31日）

変性疾患	脊椎	215	炎症・腫瘍・その他	感染症	51
	肩甲・上腕部	0		関節リウマチ	7
	肘・前腕部	0		その他のRA周辺疾患	0
	手指	0		骨軟部腫瘍	6
	骨盤・股関節・大腿骨頸部	24		癌転移	7
	膝関節・下腿部	27		脊髄腫瘍	4
	足関節・足部	3		四肢循環障害	3
	合計	269		絞扼神経障害	4
外傷	上肢の骨折・脱臼	114		先天性疾患	12
	下肢の骨折・脱臼・捻挫・挫傷	184		褥瘡	4
	体幹部（胸郭・脊柱・骨盤）の骨折・脱臼	149		術後抜釘	65
	膝内障（ACL損傷・半月板損傷）	13		その他	26
	肩腱板損傷	1		合計	189
	脊髄損傷	11	入院患者合計		931
	末梢神経損傷	1			
	合計	473			

2021年度　整形外科手術件数（2021年4月1日から2022年3月31日）

脊椎手術	頚椎椎弓形成術	54	関節手術	人工股関節初回置換術	24
	頚椎後方固定術	7		人工股関節再置換術	1
	頚椎前方除圧固定術	3		人工骨頭置換術（股）	81
	脊髄腫瘍摘出術	2		人工骨頭置換術（肩）	0
	胸椎・腰椎後方固定術	65		人工膝関節初回置換術	28
	胸椎、腰椎前方固定術	0		人工膝関節再置換術	0
	腰椎椎間板ヘルニア切除術(経皮的含む)	30		高位脛骨骨切り術	1
	胸椎、腰椎椎弓切除術	77		骨盤・大腿骨骨切り術	3
	黄色靱帯骨化症手術	0		外反母趾・前足変形	2
	ハローベスト装着	1		遊離体摘出術	0
	椎体形成術	0		離断性骨軟骨炎手術	0
	合 計	239		膝関節鏡視下手術	14
軟部手術	斜頚手術	1		膝前十字靱帯再建術（鏡視下）	4
	腱鞘切開術	40		滑膜切除術	5
	腱縫合・移行・延長術	12		合 計	163
	爪形成術	0	外傷手術	骨折観血的手術（上腕）	35
	植皮・皮弁術	0		骨折観血的手術（前腕）	77
	手根管開放術	24		骨折観血的手術（鎖骨）	18
	肘部管開放術	0		骨折観血的手術（大腿）	126
	断端形成	0		骨折観血的手術（下腿）	33
	Debridement・切開排膿術	27		骨折観血的手術（足・踵）	41
	筋膜切開	2		骨折観血的手術（その他）	16
	異物除去	2		経皮的鋼線刺入固定術	24
	合 計	108		創外固定術	18
腫瘍手術	骨腫瘍掻爬骨移植術	1		偽関節手術	3
	骨腫瘍摘出術	1		切断（離断）術	4
	軟部腫瘍摘出術	8		脱臼整復術、授動術	16
	腫瘍生検術	5		抜釘術	102
	合 計	15		合 計	513
他	その他手術	28	手術症例合計		1066

■業　績

【学会発表】　塚越祐太

1．胸椎に生じた小児椎間板石灰化症の1例．第32回関東小児整形外科研究会
2．COVID-19に伴う活動の制限により小学生の前腕骨折が増加した／Fractures of the forearm of elementary school students increased due to restricted activities in COVID-19. 第32回日本小児整形外科学会学術集会
3．スポーツ活動再開後4か月以降に発育期年代の疲労骨折発生が増加に転じた－COVID-19前後の新鮮腰椎分離症発生数の調査－．第32回日本臨床スポーツ医学会学術集会
4．同一高位の潜在性二分脊椎は新鮮腰椎分離症の骨癒合を阻害する／The same level spina bifida occulta impedes bony healing of fresh lumbar spondylolysis. 第38回日本二分脊椎研究会
5．潜在性二分脊椎と新鮮腰椎分離症の骨癒合に関する検討　－同一レベルの潜在性二分脊椎に着目して－／Bony healing of fresh lumbar spondylolysis due to same level spina bifida occulta. JOSKAS/JOSSM meeting 2021
6．学童期腰椎分離症の早期診断のための特徴に関する検討　―彼らは骨癒合に対して不利な因子を多く抱えている―．第94回日本整形外科学会学術集会
7．Anterior coverage with axial magnetic resonance imaging is important for acetabular growth in patients with developmental dysplasia of the hip.　13th Combined Meeting of Asia Pacific Spine Society & Asia Pacific Paediatric Orthopaedic Society

【座長】

1．Pain expert meeting in 北関東　生澤義輔　2021.9.28（web開催）
2．大腿骨近位部骨折県央ネットワーク　生澤義輔　2021.10.22　水戸
3．RA　Biologics Expert Seminar in 水戸　生澤義輔　2021.11.13
4．茨城県臨床整形外科医会学術講演会（web開催）　生澤義輔　2021.2.4 レイクビュー水戸
5．茨城県骨粗鬆症学術講演会　野村真船　2022.2.22　ウエストヒルズ水戸

【講演・講義】

1．骨粗鬆症治療薬の種類と特長について
生澤義輔　医科歯科連携を考える会　水戸　2022.2.18
2．整形外科学　大成女子校看護専攻科　2021年5-7月　生澤義輔
3．腰部脊柱管狭窄症の下肢しびれに対する牛車腎気丸の効果
野村真船 2022.1.25 水戸整形漢方研究会2022

【受賞・その他】

1．塚越祐太．筑波大学整形外科同門会奨励賞（臨床部門）
Characteristics and diagnostic factors associated with fresh lumbar spondylolysis in elementary school-aged children（2020）
2．塚越祐太．東京オリンピック・パラリンピック競技大会　医療支援

◆ 脳神経外科

１　担当スタッフ

主任部長　井口雅博
部　　長　塚田和明
医　　員　芥川和樹（～令和３年９月）　秋本　雄（令和３年10月～）　佐藤義泰（令和３年４月～６月）
顧　　問　森　修一
非常勤医師　外来担当（週１日）
令和２年４月から常勤医師４名体制で診療しています。
外来診療では、筑波大学から医師が派遣されています。

２　診療の概況

令和３年度は、外来患者：28.1 人 / 日、入院患者数：349 人、平均在院日数：24.5 日。

入院患者の多くは、救命救急センターを介する脳卒中・頭部外傷患者です。透析患者が多いことも特徴の一つです。

ドクターヘリ開設後、tPA 治療適応症例の増加、筑波大学脳神経外科血管内治療グループ・水戸医療センター脳神経外科との連携によるコイル塞栓術・血栓回収術など血管内手術症例が増えています。

新型コロナウイルスによる入院診療の制限があり、入院患者数は昨年よりも減少しましたが、手術件数は増加しました。

３　今後の展望

今後も筑波大学との連携強化を計り、地域の医療機関や住民の要請や期待に応えて、安全で安心できる医療を提供していきます。

（文責　森　修一）

■臨床指標・統計

【入院患者数症例数】
※主な症例のみ掲載：表中の小計及び統計には掲載以外のものも含まれます。
（次表も同じ）

症　　例	患者数	症　　例	患者数
脳腫瘍	8	機能性疾患（三叉神経痛･顔面痙攣）	0
脳血管障害	222	てんかん	4
脳梗塞	128	炎症性疾患	5
脳出血	61	髄膜炎	1
破裂脳動脈瘤	16	脳膿瘍・硬膜下膿瘍	3
未破裂脳動脈瘤	2	先天性疾患	0
脳動静脈奇形	2	クモ膜嚢胞	0
モヤモヤ病	3	水頭症	5
頭部外傷	78	椎骨脳底動脈循環不全・眩暈	1
急性硬膜外・下血腫	12	脳卒中後遺症	3
慢性硬膜下血腫	45	検査（脳血管撮影・タップテスト）	2
脳挫傷・頭蓋骨骨折	19	総計	349

【手術の内訳】

症　　例	患者数	症　　例	患者数
脳腫瘍		頭部外傷	
摘出術	5	急性硬膜外・下血腫除去術	4
生検術	0	慢性硬膜下血腫洗浄ドレナージ	53
腫瘍血管塞栓術	1	機能性疾患	
脳血管障害		神経血管減圧術	1
脳動脈瘤頚部クリッピング	9	炎症性疾患	
血管内手術（脳動脈瘤コイル塞栓術・脳動静脈奇形塞栓術・ＣＡＳ）	2	脳膿瘍除去・排膿ドレナージ術	0
脳内血腫除去術	3	硬膜下膿瘍除去術	3
脳動静脈奇形摘出術	1	脊髄ドレナージ	0
内頚動脈血栓内膜剥離術	5	水頭症手術	
血栓回収術	0	シャント術	11
脳室・脊髄ドレナージ	10	シャント抜去術	4
外減圧術	3	脊椎・脊髄疾患	1
		頭蓋形成術	3
		総計	131

■業　績

【学会・研究会発表】

1．芥川和樹 , 塚田和明 , 森 修一 , 井口雅博：産褥子癇発作に伴う頭部画像所見の変化 第 39 回筑波脳神経外科研究会学術集会 , 2021.02.14（つくば . ウェブ開催）

2．井口雅博 , 芥川和樹 , 塚田和明 , 森 修一：水戸済生会総合病院　施設紹介　 第 39 回筑波脳神経外科研究会学術集会 , 2021.02.14（つくば . ウェブ開催）

3．塚田和明 , 井口雅博 , 芥川和樹 , 森 修一：頚動脈内膜剥離術中に血栓塞栓症を起こした一例　第 105 回茨城県脳神経外科集談会 , 2021.10.17（つくば . ウェブ開催）

【講演・講義・座長等】

1．井口雅博　大成女子高等学校看護科　講義

2．井口雅博　片頭痛治療 Up to Date ～片頭痛治療の新たなアプローチ Web セミナー　 クロージングリマークス , 2021.11.04（水戸）

眼　科

1　担当スタッフ

主任部長　加畑　隆通
部長　高木　星宇
部長　林　明弘
非常勤医師　田崎　邦治
非常勤医師　村上　智哉

外来スケジュール（午前中）は下記の通り

月	火	水	木	金
加畑	加畑	林	加畑	林
林	高木	田崎	高木	高木
				村上

手術日は火曜日、水曜日、金曜日で火、金は白内障手術、水はその他の手術
午後の外来検査・診察は予約のみ

2　診療の概況

症例数等の大凡は別掲・別表のとおりである。

（文責　加畑隆通）

■臨床指標・統計

【入院患者数症例数】

症　　例	患者数	症　　例	患者数
白内障	252	眼瞼結膜腫瘤	3
緑内障	59	涙嚢炎、鼻涙管閉塞症	3
網膜剥離	19	眼内レンズ２次挿入	5
黄斑円孔、黄斑上膜	12	視神経炎	1
その他網膜硝子体疾患	41	眼球破裂	1
角膜移植目的	2	眼窩腫瘍	0
翼状片	3	眼窩底骨折	0
斜視	14	甲状腺眼症	1
眼瞼下垂	18	ブドウ膜炎（原田病）	4
眼瞼内反	16		
		総計	454

【手術症例数】

手術室での症例

症　　例	件数	症　　例	件数
白内障手術	348	眼瞼手術（眼瞼下垂）	43（18）
緑内障手術	61	斜視手術	14
網膜剥離手術（強膜内陥術）	19（3）	涙道手術（涙嚢鼻腔吻合術）	3（3）
網膜硝子体手術	55	眼窩手術（骨折）	0
角膜手術（角膜移植術）	4（2）	眼内レンズ変位、２次挿入	2
結膜手術（翼状片切除）	10（3）		
		総計	559

【手術症例数】
外来での手術

症　　例	患者数	症　　例	患者数
レーザー網膜光凝固術	101	涙道手術・涙道内視鏡	30
レーザー虹彩切開術	2	霰粒腫、膿瘍切開術	7
レーザー後発白内障切開術	60		
		総計	200

【蛍光眼底造影検査】　10件
【黄斑疾患に対する硝子体注射】　420件
【治療成績】
水戸済生会総合病院における裂孔原性網膜剥離手術成績
（黄斑円孔網膜剥離、増殖性網膜硝子体症は除く）

2002年～2021年

	手術件数	再手術件数	再々手術件数	強膜内陥術	硝子体手術	非復位（シリコンオイル眼）
2002年	19	0	0	15	4	0
2003年	28	5	0	13	15	1
2004年	20	1	1	15	5	1
2005年	20	1	1	13	7	0
2006年	24	3	0	11	13	0
2007年	20	4	1	10	10	1
2008年	18	1	0	9	9	0
2009年	14	0	0	8	6	0
2010年	11	2	0	7	5	0
2011年	9	2	0	6	3	0
2012年	23	4	1	7	16	1
2013年	25	3	0	9	16	2
2014年	11	0	0	5	6	0
2015年	23	3	0	12	11	1
2016年	20	4	1	9	11	0
2017年	22	3	0	5	17	3
2018年	26	3	0	11	15	2
2019年	33	5	2	4	29	7
2020年	11	1	0	3	8	1
2021年	16	0	1	2	14	1
total	393	45	9	174	205	22

初回復位率　86%
最終復位率　94%
術式の内容は強膜内陥術44%　硝子体手術56%

■業　績

【座　　長】
1．加畑 隆通：第9回眼底疾患研究会, 2021年6月3日（WEB）
2．加畑 隆通：茨城県視神経炎セミナー（神経内科眼科連携会）　2021年12月7日（WEB）
3．加畑 隆通：茨城県眼科医会学術講演会, 2022年1月23日（WEB）

【口　　演】
1．加畑 隆通：「献眼について」ライオンズクラブ国際333-E地区　環境保全献血献眼研修会（つくば市グランド東雲）2021年10月31日
2．加畑 隆通：「iStent inject® W挿入時のトラブル例と反省点」緑内障WEBカンファランスin MITO（WEB）2022年1月17日
3．加畑 隆通：「ロービジョンついて」茨城県視能訓練士会（つくば国際会議場）2022年2月13日

◆ 泌 尿 器 科

1　**担当スタッフ**

院長補佐兼主任部長　宮永　直人

部長　福原　喜春

部長　鈴木　秀平

本年度は、３名の体制で診療を行った。

2　**診療の概況**

悪性腫瘍では、前立腺癌、膀胱癌、腎癌、腎盂尿管癌、精巣癌に対し手術、放射線、化学療法を行っている。腎癌および腎盂尿管癌では腹腔鏡手術を導入している。膀胱全摘術の適応となる浸潤性膀胱癌においては、化学放射線療法による膀胱温存療法も行っている。結石治療ではホルミウムレーザーを用いた内視鏡手術と体外衝撃波結石破砕装置（ESWL）を併用している。前立腺肥大症の手術療法としてホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP）を行っている。また総合健診センターとの連携により早期前立腺癌の発見に努めており、本年度は112件の前立腺針生検を行った。本院は救命救急センターを有することから当科でも救急疾患を積極的に受け入れており、地域医療連携に取り組んでいる。

症例数等の大凡は別掲・別表のとおりである。

3　**今後の展望**

地域のがん診療の拠点病院としての役割を果たすべく、新たな医療技術の導入を進めたい。治験においても済生会共同治験ネットワークやいばらき治験ネットワークを活用し、中核病院としての役割を果たして行きたい。

（文責　宮永直人）

■臨床指標・統計

【入院患者数症例数】

症　例	患者数	症　例	患者数
副腎・腎疾患	112	前立腺疾患	133
腎癌	20	前立腺癌	14
腎盂尿管癌	29	前立腺癌疑い	112
腎結石	23	前立腺肥大症	7
腎膿瘍・急性腎盂腎炎	36	陰茎・陰嚢内容疾患	11
腎損傷	2	陰茎癌	3
クッシング症候群	1	精巣腫瘍	1
腎梗塞	1	精巣捻転	2
尿管疾患	51	精巣破裂	1
尿管結石	51	陰嚢水腫	4
膀胱疾患	95	その他	13
膀胱癌	85	総計	415
膀胱結石	9		
その他	1		

【手術症例数】

術　式	患者数	術　式	患者数
副腎・腎・尿管	99	前立腺	7
副腎摘除術	2	ホルミウムレーザー前立腺核出術	7
根治的腎摘除術	4	陰茎・陰嚢	10
腎部分切除術	4	陰茎部分切除術	1
腎尿管全摘除術	8	高位精巣摘除術	1
尿管部分切除術	2	陰嚢水腫根治術	4
尿管鏡	9	精巣固定術	2
体外衝撃波結石破砕術（ESWL）	35	その他	2
経尿道的尿管砕石術（TUL）	35	その他	4
膀胱・尿道	79	総計	199
経尿道的膀胱腫瘍切除術（TURBT）	68		
膀胱尿管新吻合	2		
経尿道的膀胱砕石術	9		

■業　績

【学会発表】

1．鈴木秀平、福原喜春、宮永直人：巨大腎血管筋脂肪腫に対する動脈塞栓術後に腫瘍内膿瘍を合併した1例. 第122回日本泌尿器科学会茨城地方会（つくば）、2022年2月5日

◆ 形成外科

1　担当スタッフ

主任部長　芳賀　康史

部長　　　藤田　悠気

医員　　　小泉　恵

■症例実績

2021年「年間の麻酔別及び疾患大分類別手術手技数」

集計期間　　2021年1月1日～2021年12月31日

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	245		245
腰麻・伝達麻酔での手技数	1		1
局所麻酔・その他での手技数	76	827	903
入院または全身麻酔の手技数計：322			
外来での腰麻・伝達麻酔・局麻・その他の手技数計：827			
合計係数：735.5			

※件数の条件

・入院手術または全身麻酔手術の手技数の合計が認定施設150以上、教育関連施設80以上であること

・「入院手術または全身麻酔手術1例を係数1.0」、「外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他1例を係数0.5」とした場合の合計係数が認定施設200以上、教育関連施設130以上であること

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	85		23			292	400
先天異常	48					7	55
腫瘍	37		12			439	488
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	11		2			17	30
難治性潰瘍	44	1	30			7	82
炎症・変性疾患	16		7			59	82
美容（手術）							
その他	3		2				5
Extra レーザー治療	1					6	7

第 14 回筑波大学形成外科同門会　プログラム

日時　令和 3 年 3 月 13 日（土）14 時～

虚血性筋膜炎の 2 例

水戸済生会総合病院 形成外科

川口謙太郎　藤田悠気　芳賀康史

第 17 回茨城形成外科研究会プログラム

日時　令和 3 年 6 月 11 日（金）18：50 ～

下腿挫創受傷後に破傷風を発症した 1 例

水戸済生会総合病院　形成外科　〇小泉恵　手口円花　藤田悠気　芳賀康史

第 18 回茨城形成外科研究会プログラム

日時　令和 3 年 10 月 22 日（金）19：00 ～

良性側頭筋肥大の一例

水戸済生会総合病院形成外科　〇小泉恵、藤田悠気、芳賀康史

歯科口腔外科

1　担当スタッフ

部長　武内　保敏　　　医員　井上　裕

2　診療の概況

当科では一般歯科医院では治療が困難な入院患者、心疾患や脳血管障害など有病者に対する歯科治療、あごの周囲や口の中にできた粘膜疾患、腫瘍、嚢胞病変、親知らずや埋伏歯の抜歯、歯性感染による炎症性疾患、顎関節疾患、お口の中の乾きや舌の違和感、歯の外傷やアゴの骨の骨折、口腔癌術後の顎義歯や失った歯の部位に対するインプラント治療など外科治療を中心に診療を行っております。またこども病院が隣接しているため小児血液腫瘍科と連携をとり小児白血病患者の骨髄移植前後の口腔管理を行っています。その他に心内膜炎患者における感染源精査や弁膜疾患などの心臓外科手術前、腎疾患など大量ステロイド療法前、癌における化学療法前、骨髄腫、乳癌、前立腺癌の骨転移、骨粗鬆症に対するビスフォスフォネート製剤使用中または使用前の口腔内感染巣精査および治療前後を通した口腔管理を院内各科の先生と連携をとり行っております。口腔癌患者に対しては当科で対応困難な場合は筑波大学附属病院歯科口腔外科と連携し治療の依頼と術後の follow を行っております。

3　今後の展開

コロナが依然として蔓延している状況下で安心安全な医療の提供を行うことは重要であり歯科医療に関しては感染のハイリスクとされており患者への対応、医療者の防護に常に気を遣う必要があります。患者数は激減したもののその後は回復傾向となり通常業務ではあるが油断できない状況となってます。平成 24 年度より「周術期の口腔機能管理」が新設され、口腔管理の重要性が提唱されております。がん患者における手術や放射線・化学療法を受ける方や心臓手術うける方に対し、周術期の口腔内の評価や治療を行っていくことで誤嚥性肺炎や口内炎といった有害事象の予防や軽減、在院日数の縮小につながることが示唆されており各科協力のもと進めていきたいと考えております。また病院歯科において手術を中心とした外科治療は口腔外科で、一般の歯科治療に関しては開業歯科医院で分担していくのが専門性に応じた診療体系です。そのため一般的な虫歯の治療やクリーニングなどの初期治療は設備面の問題や基本的にリスクを伴わない患者さんに対し対応困難であるというのが現状です。地域の歯科診療所の先生方の御理解と御協力により紹介率は年々増加傾向にあり、当科でもこの診療体系は確立しつつあります。かかりつけ歯科医院と役割分担をすることで地域歯科診療に貢献していけるのではないかと考えます。今後は地域開業医の先生方との連携および院内各科の先生方と協力しながら診療に従事する所存です。

■臨床指標・統計（R3 年 4 月～ R4 年 3 月）

外来新患患者数　2,956 名　　紹介患者数　1,825 名
外来のべ患者数　10,473 名

【入院患者数】　208 名　　中央手術症例数 200 例

中央手術症例内訳

症　　例	件　数	症　　例	件　数
歯・歯槽外科手術		上顎洞関連手術	
智歯抜歯術	163	上顎洞根本手術	
埋伏歯抜歯術	11	術後性上顎嚢胞	
歯根嚢胞摘出術	2	顎顔面骨骨折手術	
良性腫瘍・嚢胞・骨瘤		下顎骨骨折手術	3
顎骨腫瘍摘出術	13	口腔内外縫合術	
口蓋腫瘍摘出術	2	プレート抜去	1
頬腫瘍摘出術		顎顔面外傷	
舌腫瘍摘出術		歯の外傷歯槽骨骨折	1
口底腫瘍摘出術		創傷処理	
消炎手術		顎関節手術	
腐骨除去手術		顎関節形成術	
下顎骨区域切除術		前癌病変等	
顎骨骨髄炎消炎手術		白板症切除術	1
顔面頚部膿瘍切開術	1	上顎部分切除術	
唾液腺関連手術		舌部分切除術	
唾石摘出術		軟組織外科	
顎下腺摘出術		小帯形成術	
ガマ腫摘出術		その他	
粘液嚢胞摘出術		う蝕処置　抜歯	1
経皮的腫瘍摘出術		静脈内鎮静下手術	
補綴前外科手術		抜歯	
下顎骨隆起形成術	1	粘液嚢胞	
口蓋隆起		総計	200

■業　績

【水戸歯科医師会との連携】

医科歯科連携を考える会　2022年2月18日　ウェビナー配信

◆ 麻　酔　科

1　担当スタッフ

手術部部長：大久保　直光

主任部長：小林　可奈子

部長：佐藤　恭嘉、 前田　良太、 熊田　有紀、 佐藤　範子、 大和田　麻由子、

　　　梅崎　健司、 久保　瑠依志

（茨城県立こども病院：　奥山　和彦、 武田　由記、 助川　岩央）

当科は、隣接する茨城県立こども病院籍の医師３名を含む総勢１２名が在籍しており、両院の手術麻酔と、水戸済生会総合病院のペインクリニック外来診療を行っている。

当院の特徴として、患者層が新生児から高齢者まで幅広いこと、手術の術式が多岐にわたること、日帰り手術や緊急手術の麻酔に広く対応していることなどが挙げられる。また、周産期センターがあり、ハイリスク妊婦の分娩管理だけでなく、周産期救急の麻酔管理に携わっていることも大きな特徴である。こども病院では、小児外科手術に加えて、心臓手術、心臓カテーテル検査やＭＲＩ検査、放射線治療を行う際の全身麻酔・鎮静も行う。このように様々な症例を経験できるため、後期研修施設にふさわしく、若手医師の教育施設としても重要な役割を果たしている。

近年では、循環器内科医を主導とした、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVR）や経皮的僧帽弁クリップ術（MitraClip）などの低侵襲治療が新たに導入された。

隣接するこども病院との連携はこれまで以上に増々重要になってきており、総合周産期母子医療センターを協力して運営しているほか、小児整形外科を中心とした合併症の多い患児の術前術後管理をこども病院で行うことで、より安全・安心な周術期を患者とその家族が送れるよう連携を図っている。

2020年度から始まった術前外来と入退院支援センターも軌道に乗り、日々その恩恵を実感している。手術患者の高齢化や医療が高度になるにつれ、ますます術前からの管理の重要性が増している。手術前に早期から麻酔科医、薬剤師、看護師など多職種が包括的に介入することで、術前評価の質が上がり、術中・術後へよりシームレスで安全な医療を提供することが可能となった。また、患者の手術に対する意識向上にもつながっており、患者を中心としたチーム医療システムの質の向上にも役立っていると実感している。

看護師特定行為研修の受け入れも始まり、2021年度からは橈骨動脈ラインの確保のみにとどまらず、術中麻酔管理や気道管理、術後鎮痛の分野も学んでもらっている。手術室内での麻酔管理だけでなく、術後管理や手術室外での鎮静・急変対応にも応用できるよう、手技だけでなく考え方や麻酔科的な視点も含め教育している。

2　診療の状況

手術麻酔実績については手術統計を参照していただきたい。

コロナウィルス感染症の流行により診療を絞っていた時期を経て、withコロナの時代へと、緊急手術の多い当院において、手術までの時間を抑えつつ、スタッフや他の入院患者の感染リスクをどうしたら減らせるか、看護師と共に標準予防策の徹底と見直しを行った。平時に戻りつつある実感もあるが、感染状況はさまざまに変化しており、今後も弛むことなく、質の保たれた手術室運営をし続けることができるよう、この経験を活かすことはもちろん、より柔軟に対応できるよう努力していきたい。

3　今後の展望

引き続き安全な手術室運営と、外科医・手術室スタッフともに働きやすい環境づくりを進めていきたい。

手術室外での麻酔・鎮静など麻酔科医が関与すべき症例は多く、要望もあるが、まだ応じきれていない。年々、多職種スタッフの協力が重要かつ必須な分野であると実感している。周術期管理の知識や経験を生かし、まずは啓蒙活動や教育などを通してよりよい組織づくりに参加していきたい。

耳鼻咽喉科

1　担当スタッフ

・月曜日　午前

　非常勤　宮部　治子

・火曜日　１日

　非常勤　田中　秀峰（筑波大学）　日本耳鼻咽喉科学会認定専門医

・水曜日　１日

　非常勤　渡邉　菜月　（慈恵医大）

・木曜日　１日

　非常勤　宮部　治子　　　　　日本耳鼻咽喉科学会認定専門医

・金曜日　１日

　非常勤　宮部　治子　　　　　日本耳鼻咽喉科学会認定専門医

曜日	担当医師	午前	午後
月	宮部　治子	○	-
火	田中　秀峰（筑波大）	○	○
水	渡邉　菜月（慈恵医大）	○	○
木	宮部　治子	○	○
金	宮部　治子	○	○
土／日		休診	

2　診療の概況

地域医療及び院内での耳鼻科診察の必要な患者に対する対応に焦点を置き、診療を行っている。

入院や手術が必要な患者は、基本的には近医の病院へ紹介としている為、近医からそのような患者の紹介に関しては残念ながらお断りしているのが現状である。

3　今後の展望

2022年4月からも依然として常勤医が不在ではあるが、限られた人数の中で、外来診療を滞りなく行うよう努力していく。

リハビリテーション科

1　担当スタッフ（2022年3月現在）

部長　森　修一（脳神経外科）
科長心得　髙橋千晶（理学療法士）
係長　　山口勝彦（理学療法士）
主任　　河野直弘（言語聴覚士）、片岡信宏（作業療法士）
日本リハビリテーション医学会認定臨床医　2名
理学療法士　28名、作業療法士　11名、言語聴覚士　6名、助手　1名、計46名

2　施設基準（2021年3月現在）

心大血管リハビリテーション料Ⅰ、脳血管疾患リハビリテーション料Ⅰ、
廃用症候群リハビリテーション料Ⅰ、運動器リハビリテーション料Ⅰ、
呼吸器リハビリテーション料Ⅰ、がんのリハビリテーション料

3　実績

表1　部門別リハビリテーション実施患者数　（名）

	理学療法			作業療法			言語聴覚療法		
	実患者数		2750	実患者数		1321	実患者数		863
疾患別区分	計			計			計		
心大血管リハビリテーション	5962	入院	5030	1044	入院	1038		入院	
		外来	932		外来	6		外来	
脳血管疾患リハビリテーション	7149	入院	7091	5733	入院	5726	5599	入院	5174
		外来	58		外来	7		外来	425
廃用症候群リハビリテーション	6283	入院	6279	3430	入院	3430	1096	入院	1096
		外来	4		外来	0		外来	0
運動器リハビリテーション	14973	入院	13838	5423	入院	3928	0	入院	
		外来	1135		外来	1495		外来	
呼吸器リハビリテーション	2470	入院	2433	896	入院	896	707	入院	707
		外来	37		外来	0		外来	0
がんリハビリテーション	1087	入院	1087	292	入院	292		入院	
		外来			外来			外来	
摂食機能療法		入院			入院		2204	入院	2202
		外来			外来			外来	2
総計	37924	入院	35758	16818	入院	15310	9606	入院	9179
		外来	2166		外来	1508		外来	427
前年度総計	36328			14218			8239		

表２　疾患別リハビリテーション取得単位数　（単位）

疾患別区分	理学療法	作業療法	言語聴覚療法	計
心大血管リハビリテーション	12012	1813		13825
脳血管疾患リハビリテーション	14159	10784	7881	32824
廃用症候群リハビリテーション	10911	5894	1273	18078
運動器リハビリテーション	32042	9692		41734
呼吸器リハビリテーション	5059	1517	859	7435
がんリハビリテーション	1733	478		2211
摂食機能療法			2218	2218
総計	75916	30178	12231	118325
前年度総計	78103	26902	11816	116821

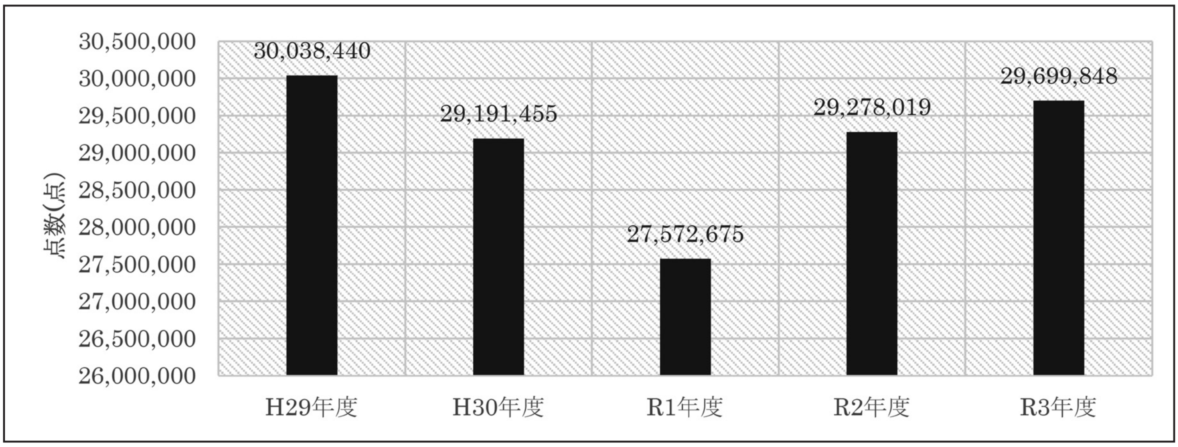
表３　診療科別リハビリテーション実施延べ件数　（件）

循環器内	消化器内	腎臓内	血液内	総合内	緩和内	外科	整形外
5557	6568	2770	391	1346	2	2946	19269

形成外	脳神経外	心血管外	産婦	小児	麻酔科	耳鼻科	泌尿器
1860	14155	1926	38	8	0	51	469

歯科	皮膚	救急
24	20	7110

図１　年度別取得点数推移



4　まとめ

当科は新型コロナウイルス感染症対策の為、リハビリテーション科スタッフを各病棟に固定配置し、病棟でのリハビリテーションを主体とし、感染流行期においては患者との接触時間を最小限にするなど、これまでより制限のある中でリハビリテーションを進める体制であった。病棟閉鎖に伴う一時的なリハ対象患者の減少の影響もあったが、コロナ陽性患者へのリハビリ介入を含め、昨年度より実施件数は9%増加した。

院内において、当院スタッフが心臓リハビリテーション指導士の資格を取得できたことにより、他院からの派遣協力を受けずに心臓リハビリテーションを行うことができるようになった。今後はより患者に寄り添った包括的なチーム作りを進めていきたい。院内チーム活動については、病棟多職種カンファレンスのほか、RST・NST・褥瘡対策チーム・入退院支援・認知症ケア・糖尿病指導等のチーム医療における連携のなかでリハビリテーション専門職として関与ができるよう推し進めている。

地域連携においては、地域連携パスの運用を継続していることに加えて、入退院支援センターとの連携を図り、入院決定時から患者家族、介護支援専門員や介護福祉施設関係者など多職種での情報共有を行う機会が増えてきている。地域包括ケアシステムにおける急性期リハビリテーションの役割を理解し、早期退院に貢献することが求められている。

今後も急性期リハビリテーションを中心として、業務効率の改善を進めるとともに業務実績の向上を図り、病院経営への貢献を果たしていきたい。当院の診療体制に柔軟に対応できる科内体制づくりと、各分野（診療科）においてより質の高いリハビリテーションが提供できる人材育成に取り組んでいきたいと考える。

【学会・研究会発表】

1. 白土　薫：経鼻胃管の細径化への啓蒙活動 . 日本臨床栄養代謝学会（オンライン）、2021 年 7 月 22 日
2. 竹歳　竜治：理学療法士による静脈血栓塞栓症の予防への取り組み . 第 41 回日本静脈学会総会（オンライン）、2021 年 9 月 6・7 日
3. 海野　淳輝：肩鎖関節脱臼の負荷量について . 第 74 回茨城ハンドセラピィを語る夕べ（オンライン）、2021 年 9 月 16 日
4. 片岡　信宏：橈骨遠位端骨折後の CRPS- 成因とセラピィにおける文献的考察 . 第 13 回日本手関節外科ワークショップ・シンポジウム（オンライン）、2021 年 9 月 25 日
5. 海野　淳輝：同居者の有無による橈骨遠位端骨折患者の Hand20 の下位項目の比較検討 . 第 13 回日本手関節外科ワークショップ（オンライン）、2021 年 9 月 25 日
6. 小林　優里奈：目標の共有により心理的変化と日常生活動作の拡大に繋がった症例 . 第 6 回北関東信越ブロック・第 13 回茨城県作業療法士学会（オンライン）、2021 年 11 月 21 日
7. 髙橋　千晶：地域包括ケア病棟でのリハビリテーションに必要な臨床技能は何か？ . 第 24 回茨城県総合リハビリテーションケア学会学術集会（オンライン）、2021 年 12 月 11 日
8. 岡永　太朗：徒手療法・姿勢修正が有効であった腰椎椎間板ヘルニアの一症例 . 2021 年度茨城県理学療法士会水戸ブロック新人症例検討会（オンライン）、2022 年 1 月 29 日

9．鈴木　聖矢：家族の不安解消に向けた他職種連携により自宅退院可能となった超高齢心不全患者. 2021年度茨城県理学療法士会水戸ブロック新人症例検討会（オンライン）、2022年1月29日

【講演・講義】

1．片岡　信宏：日本ハンドセラピィ学会、SW-Test講習会講師（オンライン）、2021年5月9日、7月11日、9月21日、2022年1月16日

2．片岡　信宏：茨城県作業療法士会、生活行為向上マネジメント（MTDLP）基礎研修会講師（オンライン）、2021年11月7日

3．片岡　信宏：日本ハンドセラピィ学会、手の評価セミナー・SW-Test講師（オンライン）、2021年11月21日

4．髙橋　千晶：茨城県理学療法士会、新人教育研修会講師（オンライン）、2021年11月28日

5．片岡　信宏：茨城県作業療法士会、生活行為向上マネジメント（MTDLP）事例検討会ファシリテーター（オンライン）、2022年2月20日

【座長等】

1．松井　佑樹、小野瀬　慎二：2020年度茨城県理学療法士会水戸ブロック新人症例検討会座長（オンライン）、2022年1月29日

【院外活動】

1．河野　直弘：太田西山高校進路支援・啓発活動、2021年10月5日

2．河野　直弘：水戸飯富特別支援学校訪問指導（水戸市）、2021年11月12日

3．髙橋　千晶：水戸特別支援学校訪問指導（水戸市）、2021年6月～2022年月2月（1回/月・計9回）

4．圷　智明：水戸地域ST勉強会・水戸地域症例検討会実行委員